

四日市農林事務所管内

白 紙

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	四日市市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	茶業振興センター移転整備事業(備品購入)
事業費	384,750 円(うち交付金)	384,750 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>新名神高速道路の整備に伴い、茶業振興センターを移転・整備する中で、お茶に関する展示を見たり、本市の特産品「かぶせ茶」を試飲できるコーナーのテーブル、椅子等に県産材の木製品を積極的に導入して、来館者に木製品の特徴である温かみのある癒しの時間と空間を提供することを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 新しく整備する茶業振興センター(平成30年4月開所予定)の「展示・試飲コーナー」に、県産材を使用したテーブル及び椅子等を購入した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(展示・試飲コーナー)</p> <p>【事業量】 テーブル1台、椅子4脚、スツール2脚</p> <p>【事業実施期間】 平成29年12月11日～平成30年3月22日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 来館者5,000人／年を想定</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 県産材を使用した木製品を導入することにより、幅広い年代の来館者に、木と触れ合う機会を提供することができる。また、木製品の特徴である温かみのある癒しの時間と空間を提供することで、リラックス効果や集中力を高める効果が期待できるため。</p> <p>【実施した効果】 木製備品が施設全体のイメージと融合し、木が持つ「あたたかみ」や「潤い」が感じられる施設となった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 当該施設の指定管理者によって日常管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「みえ森と緑の県民税」を財源として、県産材を使用している木製品であることを広く来館者にPRすることで、木材を利用する意義を周知する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 来館者からは、「木の匂いが感じられ、リラックスした気分になる。」、「木のあたたかみを感じる」などの意見があり、好評である。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	四日市市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	茶業振興センター移転整備事業(備品購入)
事業費	384,750 円(うち交付金	384,750 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による備品購入</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有施設の備品であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率99.5%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 指名競争入札</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積書の徴取</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来館者5,000人／年を想定 来館者への聞き取りによる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではないため該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の備品であるため転用又は目的外使用は該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地元説明会において施設整備の内容を説明する際、県産材を使用した備品の購入について周知を図った。</p> <p>【実施中の実績】 備品の購入であり、実施中の期間がないため該当しない。</p> <p>【実施後の実績】 各備品にロゴマークのシールを貼付して周知を図った。また、併せて市ホームページにも情報を掲載して周知を図った。</p> <p>【今後の見込】 森林環境教育に関するセミナーの開催等を三重県とも連携しながら開催していきたい。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	四日市市
-----	------

事業名	茶業振興センター移転整備事業(備品購入)
-----	----------------------

7. 写真



写真1
購入備品全景



写真2
ロゴマーク貼付

茶業振興センターの移転について

茶業振興センターでは平成30年4月の移転に向けて整備を行っているところですが、みえ森と緑の県民税を活用し、施設内の一部に県産材を利用し木質化することで、来場者に対して癒しの時間や空間を提供していきます。



イメージ：玄関ポーチ柱（木板張り）



イメージ：研修室とホールの腰壁（杉板羽目板張り）

ホームページで移転と木質化の情報を掲載

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	四日市市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名	
2	基本	茶業振興センター移転整備事業(木質化)	
事業費	145,304,280 円(うち交付金	1,480,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	新名神高速道路の整備に伴い、茶業振興センターを移転・整備する中で、多くの来館者が利用する研修棟の一部を県産材で木質化することにより、来館者に木の特徴である温かみのある癒しの時間と空間を提供することを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 新しく整備する茶業振興センター(平成30年4月開所予定)の研修棟のホール及び研修室の腰壁等に県産材を使用して木質化を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 研修棟内3箇所(ホール腰壁、研修室腰壁、玄関ポーチ柱)</p> <p>【事業量】 研修棟床面積:327㎡ うち木質化床面積:204.175㎡(研修室:120.75㎡、ホール:83.425㎡) 県産材使用量:1.141188㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月1日～平成30年3月27日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 来館者数 5,000人/年を想定</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 施設の一部に県産材を使用して木質化を図ることにより、幅広い年代の来館者に木と触れ合う機会を提供することができる。また、木製品の特徴である温かみのある癒しの時間と空間を提供することで、リラックス効果や集中力を高める効果が期待できるため。</p> <p>【実施した効果】 木質化と木製備品が調和して、木が持つ「あたたかみ」や「潤い」が感じられる施設となった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 当該施設の指定管理者によって日常管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「みえ森と緑の県民税」を財源として、施設の一部に県産材を使用していることを広く来館者にPRすることで、木材を利用する意義を周知する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 来館者からは、「施設の木質化と木製備品が調和して木のあたたかみを感じ、リラックス効果がある」などの良好な意見がある。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	四日市市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名	
2	基本	茶業振興センター移転整備事業(木質化)	
事業費	145,304,280 円(うち交付金	1,480,000 円 うち基金活用	0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有施設であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率90.0%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計書の作成</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来館者5,000人／年を想定 来館者への聞き取りによる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではないため該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 施設の木質化のため該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地元説明会において施設整備の内容を説明する際に周知を図った。</p> <p>【実施中の実績】 移転・整備にかかる事業のため、実施後に周知を図ることとした。</p> <p>【実施後の実績】 市ホームページに情報を掲載して周知を図った。</p> <p>【今後の見込】 森林環境教育に関するセミナーの開催等を三重県とも連携しながら開催していきたい。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

四日市市

事業名

茶業振興センター移転整備事業(木質化)

7. 写真



写真1

ホール



写真2

ホール



写真3

研修室



写真4

研修室



写真5

玄関ポーチ柱



写真6

玄関ポーチ柱

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
3	基本	学校林整備事業(川島小学校)
事業費	2,877,120 円(うち交付金	2,877,120 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	川島小学校は地形的に小高い丘の上に立地しており、周囲に竹林や多数の樹木を有している。丘の斜面の歩行者専用の階段が毎日の通学路となっており、頭上に多数の樹木が存在している。高台と法面の境に樹木が多く、通学路の階段や体育館への通路等危険な状態にさらされているため、危険な樹木の伐採を中心に整備を行う。また、法面は竹林が密集しており、スズメバチやマムシが生息し、児童に危険が及んだり、生育しすぎた竹が周辺の交通の支障になることから、竹林の伐採を行うことにより、児童や地域住民の安全を確保し、より親しみやすい自然環境を整える。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 川島小学校における危険木の伐採を行い、児童や地域住民の安全を確保することにより、自然に親しめる環境づくりを行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(四日市市立川島小学校)</p> <p>【事業量】 危険木の伐採19本</p> <p>【事業実施期間】 平成29年11月22日～平成30年3月13日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 小学校関係者及び地域住民 1,700人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 市立小中学校の学校林を有している6校のうち1校</p> <p>【実施した効果】 通学路階段の頭上に張り出していた樹木を伐採したことで、毎日の通学時に不安を感じるようになった。また、危険樹木を伐採したことで、台風や降雪などによる倒木被害が少なくなると期待される。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 地元の方やPTAなどによる奉仕活動及び市費による対応</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 プールや体育館への移動経路及び通学路階段といった児童が日常的に通行する区域の安全が確保されたことで、安心して草木や樹木に親しむことができるため、自然学習や自然観察を行う機会を増やしていきたい。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 以前から地元住民の方が樹木の剪定や伐採に協力してくれていたが、危険な法面にある樹木や幹周の大きな巨木といった日常の整備作業に支障となる危険木を中心に伐採したことで、以前にもまして環境整備に協力してくれている。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
3	基本	学校林整備事業(川島小学校)
事業費	2,877,120 円(うち交付金	2,877,120 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有施設であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率70.28%)及び随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札及び市の規定(地方自治法施行令167条の2第1項第1号 50万円未満)に基づき随意契約とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 現地調査、設計書の作成及び、見積書の徴取</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 小学校関係者及び地域住民(約1,700人) 小学校への聞き取りによる</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市所有以外の森林などの整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市立小学校であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 学校のホームページへ掲載した。PTAの集まりにて事業予定を報告する際、税活用の旨を口頭で説明した。</p> <p>【実施中の実績】 学校のホームページへ掲載した。</p> <p>【実施後の実績】 PR標柱の設置を行った。</p> <p>【今後の見込】 地域行事やPTAの集まりの際に、学校からPR発信してもらう予定。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 四日市市

事業名 学校林整備事業(川島小学校)

7. 写真



写真1
通学路階段の法面 前



写真2
通学路階段の法面 後



写真3
プール北 前



写真4
プール北 後



写真5
プール東 前



写真6
プール東 後

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 四日市市

事業名 学校林整備事業(川島小学校)

7. 写真



写真7
体育館東 前



写真8
体育館東 後

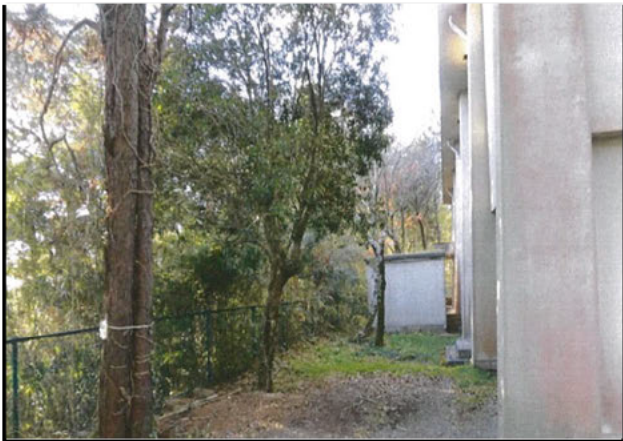


写真9
体育館東 前



写真10
体育館東 後



写真11
通学路階段の法面(階段から)



写真12
PR標柱(体育館入口横)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	四日市市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
4	基本	学校林整備事業(内部東小学校)
事業費	12,198,600 円(うち交付金	12,198,600 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>内部東小学校はその敷地に広大な学校林を擁し、多数の立木竹を有している。子どもたちの屋外活動に活用するため、昭和59年より学校が地域と協力し「学習の森」の整備が始まった経緯がある。現在も、校長が率先し、地元のボランティア団体やPTAと協力のうえ整備を続けているが、敷地の広さ故に整備が追い付かず、昨今はインシシによる被害もある。見晴らし台となっている”あおぞら広場”への遊歩道の整備を中心として、樹木の整理等を行うことにより、「学習の森」を復活させようとしている学校と地域による活動の一助とし、環境学習の場としての活用を図る。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 内部東小学校の学校林における”あおぞら広場”への遊歩道の整備を中心に不要樹木(倒木危険木等)の伐採を行い、児童等の活動スペースを確保した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(四日市市立内部東小学校)</p> <p>【事業量】 遊歩道の整備、樹木の伐採(危険樹木及び松枯れ)一式</p> <p>【事業実施期間】 平成29年12月22日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 小学校関係者及び地域住民 1,300人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 市立小中学校の学校林を有している6校のうち1校</p> <p>【実施した効果】 「あおぞら広場」への遊歩道を整備し、不要な樹木の伐採を行ったことで、児童が安全に「学習の森」で活動できるようになり、自然観察の機会が増えた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 地元ボランティア団体やPTAなどによる奉仕活動及び市費による対応</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 授業年間計画に基づき、子供たちの環境学習の場として活用する。今後は、子供たちの休み時間や地域行事などにも開放し、環境学習の場としてだけでなく、憩いの場として活用できるよう計画を進めたい。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 以前から地元ボランティア団体やPTA奉仕活動で樹木の間伐作業や下草の処理等を行っていただいていたが、危険な樹木を伐採したことで、安全に作業を行っていただけるようになった。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	四日市市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
4	基本	学校林整備事業(内部東小学校)
事業費	12,198,600 円(うち交付金	12,198,600 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有施設であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率89.92%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札</p> <p>【事業費の積算根拠】 現地調査、設計書の作成及び、見積書の徴取</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 小学校関係者及び地域住民(約1,300人) 小学校への聞き取りによる</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市所有以外の森林などの整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市立小学校であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 学校のホームページへ掲載した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付事業」と記した。</p> <p>【実施後の実績】 「学習の森」の入口に設置した看板に、税活用の旨の文を記載した。</p> <p>【今後の見込】 地域行事やPTAの集まりの際に、学校からPR発信してもらう予定。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	四日市市
-----	------

事業名	学校林整備事業(内部東小学校)
-----	-----------------

7. 写真



写真1
遊歩道 整備前



写真2
遊歩道 整備後



写真3
あおぞら広場 整備前



写真4
あおぞら広場 整備後



写真5
工事中看板



写真6
「学習の森」看板

白 紙

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	病院備品等購入事業
事業費	45,170,859 円(うち交付金 45,170,859 円 うち基金活用 22,027,859 円)	

1. 事業の目的	<p>地域の中核病院としての役割を担う総合医療センター新病院に、木製(県産材)の椅子等の備品を導入することで、多数の住民が木と触れ合うことができると同時に、病院という場所を温かみの感じられる空間にする。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 平成30年開院の桑名市総合医療センター新病院に、県産材を使用した備品(椅子・ベンチ・机等)を整備する。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター</p> <p>【補助率等】 100%</p> <p>【箇所数】 2棟</p> <p>【事業量】 椅子 266 脚 テーブル 39 台 キッズスペース 1 式</p> <p>【事業実施期間】 平成29年度～平成33年度</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 桑名市総合医療センター来院者 約1,000人/日(外来は土日祝日休み) また、見舞客に対しても波及効果が期待される。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 地域住民が利用する桑名市総合医療センター新病院を選定</p> <p>【実施した効果】 多数の住民が利用する公共の場にこの交付金を利用した備品を置くことで、病院を無機質な空間ではなく温かみを感じられる印象にするだけでなく、県民税が適切に使われていることや、県民全体で森林を育てているということを知ってもらう機会になると考えられる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 桑名市総合医療センターで管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 来院者に対して、「みえ森と緑の県民税」の活用を知ってもらう。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 5月に新病院を開院する。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	病院備品等購入事業
事業費	45,170,859 円(うち交付金 45,170,859 円 うち基金活用 22,027,859 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 桑名市総合医療センターにて購入した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 桑名市総合医療センター新病院で整備するものであるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札の結果より</p> <p>【事業費の積算根拠】 三重県産材の取り扱い業者からの参考単価を基に予定価格を設定して入札を行った。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 桑名市総合医療センター来院者 約1,000人/日(外来は土日祝日休み) また、見舞客に対しても波及効果が期待される。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 総合医療センター内で利用する什器類であるため、転用や目的外使用されることは想定されない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を活用した整備であることを、総合医療センター内で看板配置することにより周知する。</p> <p>【実施中の実績】 備品の購入であり、実施中の期間がなく、該当しない。</p> <p>【実施後の実績】 整備した什器類に、シールを貼付した。</p> <p>【今後の見込】 院内での看板配置、広報誌による紹介により周知する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

什器類	単位	数量
二人用肘なしソファ	台	4.00
三人用肘なしソファ	台	152.00
杉フリーフロア	式	1.00
三人用肘付ソファ	台	18.00
チェア(EM202)	脚	16.00
カフェテーブル	台	8.00
チェア(EM202)	台	28.00
正方形テーブル	台	7.00
チェア(KC201)	脚	48.00
正方形テーブル	台	24.00

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

桑名市

事業名

病院備品等購入事業

7. 写真



写真1

二人用・三人用肘なしソファ(HSK10059,HSK15059)

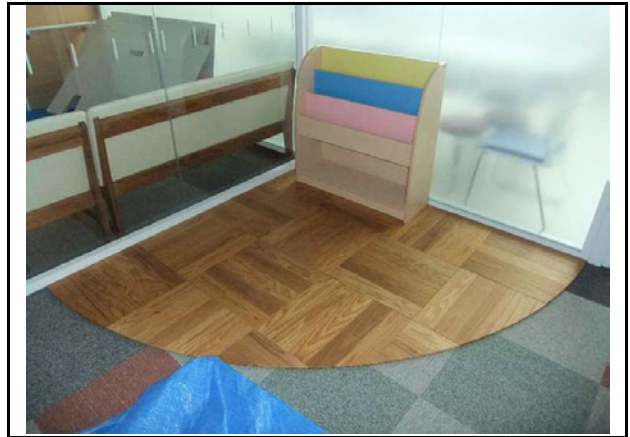


写真2

杉フリーフロア

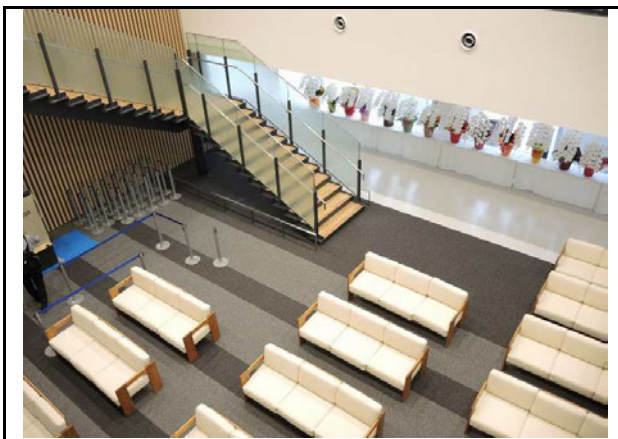


写真3

三人用待合肘付きソファ(KC102SO)

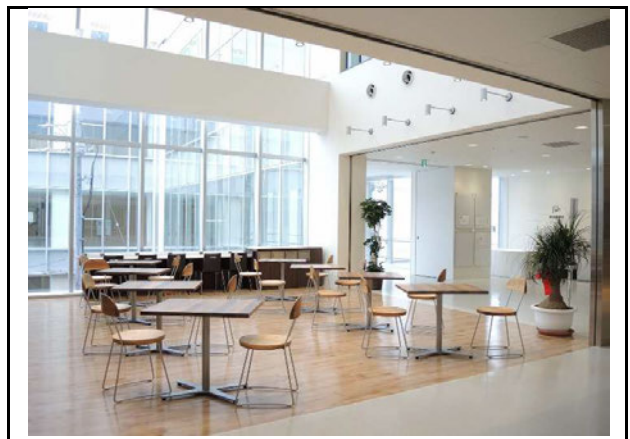


写真4

チェア(KC202)・カフェテーブル(HTS-GB-X)



写真5

チェア(KC201),正方形テーブル(KC343WP)

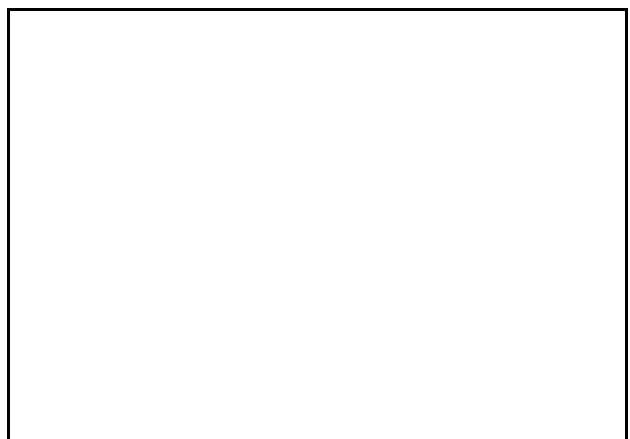


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	桑名市立大山田東小学校校舎増築事業
事業費	480,740,400 円(うち交付金	4,347,884 円 うち基金活用 4,347,884 円)

1. 事業の目的	学校施設に木材を使用することによって教育的効果の向上を図る。
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 普通教室9教室・特別支援教室2教室を含む校舎を増築する。 施設の木質化を目的として、施設の壁・天井の一部に県産材を使用する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でないため該当しない。</p> <p>【箇所数】 1校</p> <p>【事業量】 壁面 362.0㎡ 天井 102.0㎡ ・軒天18.7㎡ 等</p> <p>【事業実施期間】 平成27年度～平成29年度 平成27・28年度 調査・設計・工事 ・ 平成29年度 工事</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 大山田東小学校(平成28年5月1日現在 児童837名 職員 64名)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 該当小学校で生徒数の増加に伴う校舎の増築を行うため</p> <p>【実施した効果】 子どもたちのストレスの緩和効果。室内温熱環境の向上等。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 平成30年度より該当小学校にて管理。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 平成30年度より供用。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 生徒たちから「木の香りがして気持ちいい」「とても落ち着く」などの声が出ている。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	桑名市立大山田東小学校校舎増築事業
事業費	480,740,400 円(うち交付金 4,347,884 円 うち基金活用 4,347,884 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 工事については契約監理課で一般競争入札を行った。</p> <p>【実施方法の選定理由】 桑名市契約規則による。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札による契約。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札の落札により決定。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積を参考に積算し、予定価格とした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 大山田東小学校(平成30年4月1日現在)生徒868名 職員64名)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市立小学校の校舎であるため、転用は想定されないため、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 受益者への説明を行った。</p> <p>【実施中の実績】 現地に看板を設置して周知を行った。</p> <p>【実施後の実績】 校舎内に掲示を行い周知している。</p> <p>【今後の見込】 掲示による周知を続ける予定。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 桑名市

事業名 桑名市立大山田東小学校校舎増築事業

7. 写真



写真1
天井1



写真2
天井2



写真3
壁1



写真4
壁2



写真5
軒天1



写真6
軒天2

白 紙

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名	
1	基本・特別	都市公園木造施設整備事業	
事業費	10,424,160 円(うち交付金	10,424,160 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	<p>当市では、市民が快適で安心して暮らしていけることを目的とし、公園施設を整備している。そこで、当該税事業を活用し、遊戯施設や休憩施設の木製化を進め、木製品の持つぬくもり、優しさ等を公園利用者に広く伝えることを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 遊戯施設や休憩施設の木製化を進める。遊戯施設や休憩施設には、三重県産材を使用する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 鈴鹿フラワーパーク、鼓ヶ浦サン・スポーツランド</p> <p>【事業量】 木製遊戯施設(バグバグフレンズ3基) ・木製修景施設(藤棚1基) ・木製管理施設(案内看板2基)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年8月31日～平成29年11月18日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 2つの公園を訪れる年間約30,000人の公園利用者</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 鈴鹿市を代表する公園である鈴鹿フラワーパークと鼓ヶ浦サン・スポーツランドに施設を設置することで、老若男女を問わず年間を通し多くの来園者に利用していただくため。</p> <p>【実施した効果】 来園される多くの公園利用者に、木製品の持つぬくもりや優しさ、森林や自然環境を大切に思う気持ちが育まれることが見込まれる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 月に1回パトロールを行い、異常がないか点検し、また、約2年に1度を目安に塗装を行い長寿命化をはかる。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木製遊具に直接触れ合っただき、さらに緑の循環が分かる看板をみていただくことで、遠足やピクニック等で公園を訪れる人々に、森林の持つ機能や木製品の持つぬくもり、優しさ等を広く伝える。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木製遊戯施設に幼児が乗り、親子で遊んでいる姿や看板の前に立ち止まって看板を見ている利用者が多く見られた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	都市公園木造施設整備事業
事業費	10,424,160 円(うち交付金	10,424,160 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有施設であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 競争入札であり、落札率は89.9%である。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 競争入札による落札者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 複数者から参考見積りを徴収して積算した。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 2つの公園を訪れる年間約30,000人の公園利用者</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する施設ではないため、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公園に設置したため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 税事業であることを記載した工事予告看板の設置した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板にロゴマークと税を活用した事業であることを明記し、広報誌でも設置する旨を掲載。</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所に看板を設置した。</p> <p>【今後の見込】 市報にて設置完了のお知らせをした。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 都市公園木造施設整備事業

7. 写真



写真1
バグバグフレンズ(クワガタ)



写真2
バグバグフレンズ(カブトムシ)



写真3
藤棚



写真4
案内板

**三重県産木製
昆虫型遊具設置**

市街地整備課 ☎382-9025 📠382-7615

三重の木でできた昆虫型木製遊具を鈴鹿フラワーパーク(カブトムシ型とクワガタ型)と鼓ヶ浦サン・スポーツランド(カブトムシ型)に設置しました。木の香りや温もりを感じてください。

※遊具の作製には、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用しています。



写真5
市報に載せた本文



写真6
鈴鹿フラワーパークでの周知

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	暮らしを守る森林保全事業
事業費	2,637,900 円(うち交付金	2,637,900 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
当市の海に面した沿岸には海岸林があり、防潮・防風・飛砂防止・津波軽減など暮らしを守っているが、病虫害被害が広がっていることや、手入れされずに枝が広がり、道路や電線、集落に覆いかぶさり、台風時に倒木したり、枝が飛散したりし、集落や人身に危険を及ぼすことが懸念されている。そこで、当該税活用事業により、人家周辺における危険木や病虫害被害木の伐採・除去、被害防止のための処置等を実施することによる海岸林等の維持保全を行い、通行の安全や住民の暮らしの安全を確保することを目的とする。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 海岸林や人家周辺の病虫害被害木の伐倒・駆除を行った。また、松林再生のために、抵抗性クロマツの植樹を行った。植樹に当たっては、一部のエリアにおいて、2年前から地元の小中学生を対象にした森林環境教育として、実施している。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない</p> <p>【箇所数】 特別伐倒駆除: 1箇所(鼓ヶ浦海岸) 森林環境教育: 1箇所(鼓ヶ浦海岸) 植樹: 1箇所(東磯山緑地)</p> <p>【事業量】 特別伐倒駆除3本, 森林環境教育(抵抗性クロマツ250本の植樹), 植樹(295本※業者委託)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 鼓ヶ浦海岸・千代崎海水浴場付近在住の市民(2,049世帯 4,599人), 東磯山緑地周辺の住民(462世帯 1,074人) 植樹参加者(小中学生とボランティア): 約230名</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 鼓ヶ浦海岸は、海水浴場として、観光客の目に触れるのは勿論、「白砂青松100選」に選ばれた、かつての風景を復活させたいという地元の強い要望がある。また、東磯山緑地は、海沿いある集合住宅地に沿って位置し、近年の松枯れにより撤去された荒地が多く、地元住民から松並木再生に関する要望が多かったため。</p> <p>【実施した効果】 景観の改善と、周囲への病虫害被害抑制</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は市有地であり、今後も引き続き市が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 市民の憩いの場として、維持管理していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 利用している市民からは、景観の改善と、松くい対策をしていることへの安心の声が聞かれた。また、植樹では、小中学生自身に苗木を植えてもらうことで、海岸や松に愛着がわいたという感想があった。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	暮らしを守る森林保全事業
事業費	2,637,900 円(うち交付金	2,637,900 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 専門技能が必要なため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 特別伐倒駆除: 随意契約(2者見積) 森林環境教育: (2者見積) 植樹: 随意契約(複数者からの見積合せ)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 見積合せの結果、安価な業者に決定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 特別伐倒駆除: 見積書による 森林環境教育: 見積書による 植樹: 三重県の積算基準により積算した。松苗の単価については複数者から見積りを徴取した。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 鼓ヶ浦海岸・千代崎海水浴場付近在住の市民(2,049世帯 4,599人), 東磯山緑地周辺の住民(462世帯 1,074人) 植樹参加者(小中学生とボランティア): 約240名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市管理地であり、森林等の整備ではなく、該当しない。なお、植樹マツについては、鼓ヶ浦観光協会と鈴鹿ベイロータリークラブが見回りと管理を行うよう覚書を交わしている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市管理地のため、転用等が想定されず、該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地域の観光協会、ロータリークラブとの会議において、「みえ森と緑の県民税」を活用して事業を実施している旨を周知した。また、市の予算書にみえ森と緑の県民税の活用を明記した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」と記載した。植樹中は、実施地にのぼりを設置した。また、税事業である旨記者提供を行った。</p> <p>【実施後の実績】 事業実施箇所に看板を設置している(写真3,4,5)。また、植樹イベントは新聞取材を受け、税事業である旨を記載していただいた。</p> <p>【今後の見込】 来年度以降も実施予定の事業において、同様の周知を継続していく。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分

2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名

鈴鹿市

事業名

暮らしを守る森林保全事業

7. 写真



写真1

海岸の枯れ松



写真2

枯れ松伐倒完了写真



写真3

伐倒作業中看板



写真4

松植樹(業者委託)



写真5

植樹記念看板設置



写真6

小・中学生による植樹

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	愛宕山等森林整備事業
事業費	6,382,620 円(うち交付金 6,382,620 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	以前から地元が自然に触れる場所として散歩道などに利用してきた住宅地の中にあるうっそうとした里山や、手入れが行き届かず雑木が繁茂し、子供の安全や治安の面などで不安の声がある里山において、当該税活用事業を活用し、早急に整備を行う。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 集落周辺の里山として、間伐や危険木の除去などの森林整備を行った。また、昨年森林整備を実施した場所(愛宕山)と今回実施した場所(椿)に県民税活用事業である旨を記載した看板を設置した。その後の維持管理については、地元自治会により定期的な下草刈りなどを実施する旨了承を得ている。また、椿には、木製ベンチを設置し、今後環境教育の場として活用していく。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2箇所</p> <p>【事業量】 0.4ha</p> <p>【事業実施期間】 平成29年9月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 北江島町周辺住民3自治会約1,300世帯 約3,000人 椿一ノ宮町周辺住民約100世帯 約 300人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 これまで整備が行われておらず荒廃が進んでいる里山で、かつ地元住民からの整備要望があり、受益者が多いことから選定した。</p> <p>【実施した効果】 森林整備を実施したことで、周辺集落の生活環境の向上が期待できる。また、うっそうとしたイメージから、散策等でも気軽に立ち寄れるような環境となったことで、里山を訪れる多くの人に、森林の大切さや良さを理解していただける効果が期待できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 地元自治会が定期的な下草刈りなどを実施する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所に、税のPRや里山の歴史を記載した看板を設置することで、当該里山を訪れる方へ、税事業の実績の周知と愛着心の向上に繋げる。また、椿では、地元自治会により、環境教育を行っていく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 地域住民から、「里山全体が明るいイメージとなり、地域住民が活用しやすい場となった。」「今後、子どもたちを集め、森林環境教育を行っていきたい。」といった声をいただいた。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	愛宕山等森林整備事業
事業費	6,382,620 円(うち交付金	6,382,620 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 伐採:委託 看板:市が購入(愛宕山の看板の内容は、地元住民が土地の歴史等を調べ、作成した。)</p> <p>【実施方法の選定理由】 市有地の整備であるため、市が主体で実施した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 伐採:指名競争入札(11者指名)落札率62.6% , 見積合せ(3者見積) 看板:見積合せ(2者見積)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 伐採・除去:指名競争入札の落札者に決定。一部、見積合せを行い、最も安価な業者に決定 看板:見積合せを行い、最も安価な業者に決定</p> <p>【事業費の積算根拠】 指名競争入札、見積合せに当たり、複数者から参考見積を徴収し、平均価格を予定価格とした。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 周辺住民の人数を、市の統計資料により把握</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市が管理する里山であり、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市が管理する里山であり、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 実施前の地元説明会において、税を活用した事業の実施を周知した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板にロゴマークと税を活用した事業であることを明記した。</p> <p>【実施後の実績】 整備地に、ロゴマークと税を活用した事業であることを明記した看板を設置した。</p> <p>【今後の見込】 今後、当該里山を訪れる人が看板を目にし、税事業であることの周知が広められる。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 愛宕山森林整備事業

7. 写真



写真1
実施前1(北西から)



写真2
実施後1



写真3
実施前2(南東から)



写真4
実施後2



写真5
木製ベンチ



写真6
愛宕山看板
椿標柱

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森林環境教育事業
事業費	495,436 円(うち交付金	495,436 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
ノコギリを使った体験講座や芝・木の植樹体験講座を行い、参加者に竹や木にふれること等で森林を身近に感じてもらうことを目的とする。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 人と緑の交流を目的として開催されている植木まつりの会場において、木や竹を使ったノコギリ体験講座を行い、来場者に森林を身近に感じてもらった。また、森林の大切さや緑の循環などを説明したパネルを設置し、説明した。芝張り・植樹体験講座では、市内の植木生産者を講師に向かえ、地元の小学生に向け、森林のはたらきや必要性の講義、二酸化酸素の固定量を計算する実習等の森林環境教育を行った。講義では、税事業により作成された副読本を使用した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(鈴鹿フラワーパーク)</p> <p>【事業量】 2講座</p> <p>【事業実施期間】 ノコギリ体験：平成29年4月16日 芝張り・植樹：平成29年10月5日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 ノコギリ体験：約100名 芝張り・植樹：約100名(小学5年生72名,学校関係者10名,植木生産者12名)</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 ノコギリ体験は、1万5千人以上の人が集まるイベント会場において実施することにより、直接の受益者以上に、波及効果を見込めるため鈴鹿フラワーパークを選定した。また、鈴鹿フラワーパークは、本市の主要な公園であり、訪れる多くの人へ緑の豊かさを伝えることができる。</p> <p>【実施した効果】 ノコギリ体験では、パネル展示により森林の持つ機能を学んでいただいたり、道具の使い方等の様々な知識を身につけてもらったりすることで、森林を身近に感じてもらうことができ、森林に対する関心等を高められた。また、実施後にアンケートを実施することにより、森林に対する意識付けが行えた。また、公園内の閑散とした場所で芝張りや植樹(ハナミズキ)を行うことで明るい雰囲気となり、利用者に緑の癒しを実感していただく場となった。また、森林環境教育を同時に実施することで、参加者に木のはたらきや必要性を伝えることができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 整備事業等でなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 体験参加者が木材利用の意義や森林の大切さを学ぶ場を作った。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 ノコギリ体験の参加者からは、「ヒノキや竹という自然の素材に触れることができよかった」「木がこんなにもいい香りがするのを初めて感じる事ができた。」といった声があった。芝張り・植樹を体験した小学生からは、「芝や木を植えることは大変だったが、きれいな空気をつくるためにも、丈夫に育てほしい。」といった声があった。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森林環境教育事業
事業費	495,436 円(うち交付金	495,436 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 ノコギリ体験:委託 芝張り・植樹:資材の購入,講師の植木生産者はボランティア参加</p> <p>【実施方法の選定理由】 ノコギリ体験:専門的な技術を必要とするため。 芝張り・植樹:市内小学校と植木生産者の交流を通じ,森林環境教育を実施するため,資材のみ購入した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 ノコギリ体験:随意契約(1者) 芝張り・植樹:随意契約(2者見積)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 市の規程により随意契約とした。ノコギリ体験は,昨年,同事業を委託している実績があり,効率的であるため1者随契とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積価格を参考とした。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 イベント時に参加者数をカウントした。 ノコギリ体験:約100名 芝張り・植樹:約100名(小学5年生72名,学校関係者10名,植木生産者12名)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく,該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有地であるため,転用等が想定されず,該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 ノコギリ体験:市HP,イベントチラシ等に,県民税活用事業である旨を記載した。 芝張り・植樹:生徒や保護者,植木生産者に税事業で実施する旨を伝えた。</p> <p>【実施中の実績】 ノコギリ体験:講座実施看板に,県民税事業である旨を記載し,さらに税事業ののぼりをたて,参加者に対し,県民税事業であることを周知した。 芝張り・植樹:税事業ののぼりをたて,参加者に対し,県民税事業であることを周知した。また当日の取材者(新聞社,ケーブルテレビ)に税事業であることを伝えた。</p> <p>【実施後の実績】 ノコギリ体験:木製品等について,県民税のシールを貼付した。 芝張り・植樹:植樹した木に税事業のロゴマークが入ったプレートをくりつけた。当日の様子は,ケーブルテレビや新聞で取り上げられ税事業のPRも行えた。</p> <p>【今後の見込】 公園を訪れる人がロゴマークが入ったプレートを目にすることで,税事業の周知が行える。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

鈴鹿市

事業名

森林環境教育事業

7. 写真



写真1

ノギリ体験(事前広報)



写真2

ノギリ体験(実施中広報)



写真3

芝張り・植樹(森林のはたらきについて)



写真4

芝張り・植樹(芝張りのようす)



写真5

芝張り・植樹(植樹のようす)



写真6

税のPR

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	緑の未来づくり事業
事業費	159,361 円(うち交付金	118,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	自然環境の保全、木に触れ合う機会の提供、森林環境教育等を実施する住民団体や、私有地の森林を適正に管理しようとする個人又は団体等に対し、その活動に要する経費の一部を補助することにより、住民による自発的な森林づくり活動を支援するとともに、住民が木に触れ合う機会を創出し、森林を大切に思う心の育成に繋げる。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 森林環境の保全や、森林を市民で守り育てる意識の醸成に寄与する活動(放置された里山林に子供向けの秘密基地や遊歩道を作る活動)、及び、地区保全森林内の病虫害被害木を適正に管理しようとするものに対し、補助金を交付した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 申請団体(構成員の半数以上が市内に在住する団体に限る。)、及び、病虫害被害木の所有者又は管理者</p> <p>【補助率等】 補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額(上限10万円)</p> <p>【箇所数】 2箇所 里山整備・森林環境教育事業:鈴鹿市徳居町 枯松の伐採:鈴鹿市南若松町</p> <p>【事業量】 里山整備・森林環境教育事業:1団体 松くい虫被害松の特別伐倒駆除:1人(3本)</p> <p>【事業実施期間】 里山整備・森林環境教育事業:平成29年9月～平成29年12月 枯松の伐採:平成29年10月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 里山整備・森林環境教育事業参加者:1事業63名(うち子ども(小学4年生前後)31名・大人32名) 病虫害被害木伐採者:1名 その他実施箇所周辺の地域住民</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 里山整備・環境教育事業については、市内全域を対象としている。 枯松の伐採補助については、地区保全森林に指定されている箇所に限っている。</p> <p>【実施した効果】 里山整備・環境教育事業については、地域団体が主体となり、地域住民をまきこんだ放置里山の整備や森林環境教育がなされた。 枯松の伐採補助については周辺の多く生育する松に対する森林病虫害の被害拡散防止になったことに加え、海岸堤防道路の景観が改善された。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施主体が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 枯松伐採については、実施主体が継続的に管理を行い、里山については、森林環境教育の場として今後も活用していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 里山整備・森林環境教育の参加者は、森で遊ぶことに興味を示し、里山に継続して親しむようになったとのこと。また、枯松伐採を実施した市民からは、周辺の松へ悪影響を及ぼすことを懸念していたので、切ることができてよかった、補助金に助けられたという声があった。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	緑の未来づくり事業
事業費	159,361 円(うち交付金	118,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 私有地は個人が管理するのが前提であるが、処理費用がかさむため、これまではなかなか対処が進まず、周辺の健康木へも影響を及ぼしていた。そのため、一部補助という方法で、あくまで住民主体で森林保全を行うことを目指した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額(上限額10万円)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 枯松伐採については、実施主体が2社以上の業者から見積をとり、安価な者と実施主体の市民が契約</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積書等による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 里山整備・森林環境教育:実施主体1団体, 参加者63名 枯松伐採:市民1名, 南若松町周辺住民846世帯1,737名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 実施主体が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 里山整備については、所有者との契約を締結しているため、また、枯松伐採は個人の庭であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 事業募集時に、広報等で税活用事業である旨を記載した。</p> <p>【実施中の実績】 実施箇所に、県民税事業である旨を記載したのぼりを設置した。</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所周辺に、県民税事業である旨を記載したラミネートを設置している。</p> <p>【今後の見込】 来年度事業申請を広報する際に、「みえ森と緑の県民税」事業であることを併せて周知する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 緑の未来づくり事業

7. 写真

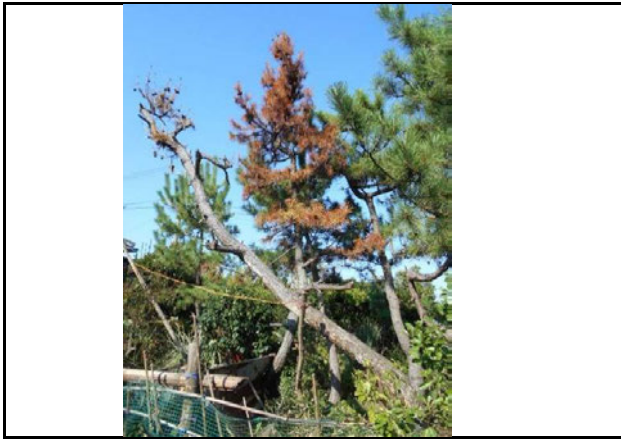


写真1
枯松伐採前



写真2
枯松伐採後



写真3
里山整備・森林環境教育事業1



写真4
里山整備・森林環境教育事業2



写真5



写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	記念樹配布事業
事業費	420,440 円(うち交付金	420,440 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	結婚や新築，入学など人生の節目に記念樹をプレゼントすることにより，市民が暮らしに身近なところで樹木に愛着を持ちながら触れ合うことができ，緑潤うまちづくりを推進することを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 人と緑の交流を目的として開催している植木まつりの会場において，結婚，新築1年以内の方と，当年度に小学校入学，中学校入学，高校入学の方に記念樹を配布した。また，記念樹には，三重県産杉で作成したロゴマーク入りのプレートをかけ，裏側には記念に関するメッセージを油性マジックで書いていただいた。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく。該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（鈴鹿フラワーパーク）</p> <p>【事業量】 239本（クルメツツジ 52本、万両 57本、オリーブ 130本）</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月8日～16日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 239家族（約700名）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 1万5千人以上の人が集まるイベント会場において実施することにより，直接の受益者以上に，波及効果を見込めるため。</p> <p>【実施した効果】 生活に身近な場所において人生の節目に樹を植えることにより，植物に対する愛着心を抱かせることが期待できる。また，近年，手入れが困難という理由により，家庭での植樹・植栽離れが生じているが，この事業をとおり身近な場所に思い入れのある木を植樹してもらうことにより，自然の木の良さを感じてもらうことが期待できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 整備事業等でなく，該当しない。配布した記念樹は，各家庭で受益者が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 各家庭において，人の成長と共に，育てられていく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木の成長と共に子供の成長を見届けれるのでよい。入学の良い記念となった。等の意見があった。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	記念樹配布事業
事業費	420,440 円(うち交付金	420,440 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入し、植木まつり期間中に対象者へ配布した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 記念樹に適した木を選定し、購入した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約(木製プレート:3者見積, 記念樹:合計10万円以上の樹種は2者見積, それ以外は1者)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 市の規程により、合計金額10万円以上のものは複数者見積を行い、価格の安いところを契約相手として選定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積価格を参考とした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 記念樹を配布した人及びその家族を受益者とした。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林整備等でなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林整備等でなく、該当しない。記念樹は、植樹した場所において、人の成長とともに、植樹した家族が見守っていく。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 イベントチラシ等に、県民税活用事業である旨を記載した。</p> <p>【実施中の実績】 記念樹配布の際に、記念樹の意味と県民税活用事業である旨を記載した用紙を配布し、県民税活用事業であることを周知した。また、アンケートを実施することにより、森林への意識醸成が図られた。</p> <p>【実施後の実績】 ロゴマーク入りの木製プレートを、配布する記念樹に掛け、税事業であることをPRした。</p> <p>【今後の見込】 各家庭において育てられ、ロゴマーク入りのプレートが県民税事業であることを思い起こさせる。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 記念樹配布事業

7. 写真

ハローツリープレゼント 無料
 8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日) 9:00～ 先着各日100名様
 対象者：鈴鹿市在住で、1年未満に新築・結婚された方と、今年小中学校、高校入学の方（ご本人がお越しください）※1家1名様1本限り

ハローツリー（記念樹）とは。
 人生の節目となる誕生や結婚、入学、卒業、新築などを記念して植える樹木のこと
 [記念樹の一覧です]
 誕生：ナンテン、マツ
 結婚：ウメ、ツツジ、モモ、ライラック
 入学：サクラ、アペリア、イチョウ
 親への感謝・退職：鈴鹿市の花「サツキ」

この事業はみえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、実施しています。
 木を植えることは、地球温暖化の防止にも貢献します。
 ぜひ、三重県の木のみくもりを身近に感じてください。

写真1

事前広報

写真2

実施中広報



写真3

木製プレート

写真4

木製プレート裏(メッセージ)



写真5

記念樹配布

写真6

受付

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	乳児期から木にふれあう木育事業
事業費	1,200,000 円(うち交付金	1,200,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	子育て支援事業や母子保健事業を通じて木製玩具を配布することにより、乳児期の頃より木にふれあう機会を増やし情操を育むなど豊かな子育てを実現することを目指していく。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 林福連携により、赤ちゃんに適した木製玩具を地元高校の方と共に、デザインの提案からスタートして県産の木材を活用して作り上げた。完成した木製玩具は、子育て支援事業(子育てサロン、つどいの広場、子育て支援センター、サークルなど)や母子保健事業(1歳6か月児健診、すくすく広場、親子教室)等で提供し木製品にふれあう機会を作っていく。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない。</p> <p>【箇所数】 市内37箇所(内訳:公民館20箇所, 児童センター2箇所, 子育てサロン13箇所, 市の子育て支援センター2箇所)</p> <p>【事業量】 木製玩具 単価 2,000円×600個</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 公民館行事や子育てサロンなどに参加する保護者と乳児(健診と教室は幼児)を対象とする。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 玩具の適用年齢に則した、より多くの乳幼児に木のおもちゃを利用していただけるよう、公民館行事や子育てサロンなど、保護者と乳児(健診と教室は幼児)が定期的に集まる場所に、おもちゃを配付した。</p> <p>【実施した効果】 乳児期より木製玩具に触れることで、赤ちゃんは木の暖かさ、手触り、においなどを知り、五感に刺激を受け健やかな育ちがはぐくまれます。また、家族にとっても木の玩具に触れることで癒し効果を得ることができる。幼い時から乳幼児期の頃より木のおもちゃを使って遊ぶことにより、木のぬくもりにふれ、子どもの感性を豊かにする効果や家族や保育者にとっても、木の良さを知る機会となる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木のぬくもりや香りに接することにより、赤ちゃんの感性を育むことにつながった。さらに、保護者や保育者に関しても、木を使った玩具の良さを知ってもらうことができた。今後は、親子が訪れる市役所の窓口や、市の子育て支援センター、社会福祉協議会のボランティア団体等の事業においても活用する予定である。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 「玩具の形が可愛らしく、ぬくもりがあり、思わず手に取って子どもと遊びたくなる」、「高級感があり、上質な玩具である」、「市販の木の玩具は高価なため買えないので、公共の場所で、子どもが木に触れられるのは嬉しい」という保護者の声があった。一方、「幼児は、色のついた玩具の方に興味があり、あまり触らない」、といった声も聞かれた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	乳児期から木にふれあう木育事業
事業費	1,200,000 円(うち交付金	1,200,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 三重県立飯野高等学校生が考案したオリジナルデザインを、手作り木工『アトリエちいく』と社会福祉法人『檜の里 あさけ学園』に委託し、共同作業で作成した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 三重県立飯野高等学校生が考案したオリジナルデザインを、安価に具現化することができる委託先を選定した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約（一者）</p> <p>【契約相手方の選定理由】 三重県立飯野高等学校生が考案したオリジナルデザインを、安価に具現化することができ、木の持ち味を生かした玩具を作成できる委託先であったため。</p> <p>【事業費の積算根拠】 木製玩具 単価 2,000円×600個 (2,000円の内容は、原材料費と作成者の日当)</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 公民館行事や子育てサロンなど、保護者と乳児（健診と教室は幼児）が定期的集まる場所で使っていただく木のおもちゃを配付した。一箇所あたりへの配布個数は把握しているが、行事やサロンに何人参加したかまでは、把握していない。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公民館や子育てサロン等施設内で使用してもらうための木のおもちゃを配付したため、目的外使用や転用は想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して作成した木製玩具であることを説明するためのチラシを作成し、関係機関に周知した。</p> <p>【実施中の実績】 実施前に作成したチラシをラミネートパウチして、子育て支援事業等で玩具を使用する場所ごとに掲示し、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して作成した玩具であることをPRした。</p> <p>【実施後の実績】 公民館や子育てサロン等で、引き続き積極的に利用していただけるよう、主任児童委員部会等で玩具に関する意見を聞いていく。</p> <p>【今後の見込】 今後は、親子が訪れる市役所の窓口や、市の子育て支援センター、社会福祉協議会のボランティア団体等の事業においてもこの玩具を活用していただくことによって、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して作成した玩具であることを、引き続きPRする。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	乳児期から木にふれあう木育事業
-----	-----------------

7. 写真



写真1
ぞうの玩具



写真2
きりんの玩具



写真3
説明チラシ



写真4



写真5



写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
8	基本	木工工作及び木製品購入事業
事業費	455,825 円(うち交付金	455,825 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	木のブックエンドキットを使用した木工教室を開催し、木材について触れ合い、学ぶ機会を提供する。また平台(主にイベント開催時に使用)を購入し、木製品を身近に感じてもらう。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 木のブックエンドを作る木工教室を開催し、主に小学生及びその親に対して木材に触れ合い、親しむきっかけをつくることができた。平台を購入することで、施設設備における木製品を充実することができた。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 鈴鹿市立図書館内(木工教室の開催はいずれも本館内2階視聴覚室にて開催、平台も主に2階視聴覚室にて使用予定)</p> <p>【事業量】 平台 9台 木工キット 157セット</p> <p>【事業実施期間】 木工教室開催日:8月23日, 8月24日, 8月30日, 8月31日, 3月24日の計5日 平台納品日:2月6日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 木工教室参加者 計350名 平台は使用時のイベントの参加者</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 木工教室は図書館内で開催することにより、参加者が前年度までに当事業で購入した椅子や書架を見る・使用するという効果を期待できる。</p> <p>【実施した効果】 木工教室については、定員を上回る応募があるといった、魅力のあるイベントであったので、たくさんの参加者に当事業のことを周知することができた。また、県民税の趣旨や三重の森の現状について説明した。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 平台については、図書館内でのイベント開催時での使用が見込まれるため、図書館が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木工教室で作成した物は、長期間使用できる物であり、木の大切さや木材利用の意義を実感してもらうことができる。また、今後図書館内でのイベント開催時において、平台の使用が見込まれ、多くの参加者に当事業のことを知ってもらうことができ、木の大切さに関心を寄せてもらうことが期待される。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木工教室は、ほとんどの回において定員を上回る応募があり、関心の高さがうかがえた。またイベント中の様子からも概ね好評であった。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
8	基本	木工工作及び木製品購入事業
事業費	455,825 円(うち交付金	455,825 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 木工教室:物品(木工キット)の購入, その販売者が製作補助・木育啓発を実施 平台:物品の購入 いずれも図書館が発注</p> <p>【実施方法の選定理由】 三重県産木材を使った木工教室を行える業者を選定し, 物品購入, 製作補助委託を行った。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約(1者随契)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 木工教室については市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第2号)に基づき, 一者との随意契約とした。選定理由はその業者が三重県産木材を使った家具作りを多く行う業者であり, かねてよりDIYイベントを開催しており, 製作の講師及び三重県の木材に関心を持つための啓発活動も併せて行なうことができる。また, 釘やかなづちといった音が出る工具が使えない図書館の限られた条件の中で, 適切なアイデアやアドバイスを求めることができる業者のため。平台については市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号)に基づき, 複数の業者から見積を徴取し, 少額随契とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積書を徴取したところ, 積算資料のとおりであった</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 木工教室参加者計350名 平台は使用時のイベントの参加者</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく, 該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林整備等でなく, 該当しない。製作物は製作者が, 備品は図書館で管理していく。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 木工教室については, 事前に市広報・ホームページ・チラシにて税事業である旨を記載し, 広く市民に周知し参加を募った。</p> <p>【実施中の実績】 木工教室の開催時には, 看板を設置し, テーマコーナーを設けたり, パンフレットやクリアファイルを配布することで, みえ森と緑の県民税の目的や仕組みを周知した。また制作に取り掛かる前には, 木工キット販売者から参加者に対して県民税の趣旨や三重の森の現状についての説明を行なった。</p> <p>【実施後の実績】 後日, 複数の新聞に当日の様子の写真とともに取り上げられ, ホームページにも掲載することで, 多くの市民に周知することができた。またブックエンド, 平台のいずれもロゴマークを焼印している。</p> <p>【今後の見込】 ブックエンド, 平台のいずれもロゴマークを焼印しているので, 当事業のことについてはブックエンド制作者の家族や友人, 平台は図書館イベントの参加者へと広がっていくことが見込まれる。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	木工工作及び木製品購入事業
-----	---------------

7. 写真



写真1
木工教室の様子。多くの親子連れの人達に参加してもらうことができた。



写真2
ブックエンドの完成品。製作を親子で楽しんでもらうことができた。



写真3
ブックエンドの完成品。製作を親子で楽しんでもらうことができた。



写真4
平台の完成品。



写真5
雛壇の台として利用した。



写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
9	基本	森と親しみ、暮らしを守る啓発事業
事業費	4,588,866 円(うち交付金	4,588,866 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
啓発案内看板及び標識は、山火事がもたらす森林荒廃を防止し、森林への土砂流出を防ぐことを目的とする。森林を火災から守るため、山火事予防の啓発や、登山客が安心してハイキングできるよう、遭難時の通報ポイントなども掲示した啓発案内看板と啓発看板を設置する。それとは別に拍子木という日本の伝統的な相撲や夜回りなどに使われている道具を自主防災隊及び幼・少年消防クラブ、Hiまわり分団に配布し、年末時の火災予防運動や催し物等で啓発活動することで地域の防災意識の向上を図ることができる。また、この事業において看板や拍子木に触れ合うことで、県民が森林や緑を身近に感じ親しみやすい環境を整えることができ、三重県産材についても学び、知識を育み、森林を身近に感じてもらう。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 啓発案内看板を鈴鹿市中央消防署鈴峰分署敷地内に設置し、山火事予防の啓発看板を登山道入口付近や、鈴鹿市内で過去に林野火災等が発生した箇所付近に設置し啓発する。また、自主防災隊及び幼・少年消防クラブ、Hiまわり分団に拍子木を配布し、年末時の火災予防運動や幼・少年消防クラブ及び自主防災隊の訓練などの際に活用し、Hiまわり分団においては紙芝居等の催し物で活用する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 該当しない</p> <p>【箇所数】 啓発案内看板：1箇所（鈴鹿市中央消防署鈴峰分署） 啓発標識：17箇所（椿地区・国府地区・天名地区・河曲地区・飯野地区・玉垣地区・栄地区） 拍子木：405箇所（【内訳】404箇所：自主防災隊及び幼・少年消防クラブ等1箇所：Hiまわり分団）</p> <p>【事業量】 啓発案内看板：1箇所 啓発標識：17箇所 拍子木：405個（自主防災隊、幼・少年消防クラブ及びHiまわり分団）</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 啓発案内看板設置付近には、椿大神社や登山コースがあり、自動車等の交通量も多く、サイクリング客などが来訪する。また、バス利用者や保育園児などの子供たちが署見学で鈴峰分署に訪れる。 拍子木に関しては、自主防災隊（305組7万7,359世帯）及び幼・少年消防クラブ（約2,700人）が火災予防運動や消防訓練などの際にも活用する。また、Hiまわり分団員（15人）による紙芝居等の催し物で利用する。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
9	基本	森と親しみ、暮らしを守る啓発事業
事業費	4,588,866 円(うち交付金	4,588,866 円 うち基金活用 0 円)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

啓発案内看板を設置した鈴鹿市中央消防署鈴峰分署は、椿大神社や登山コースなどが付近にあり、観光資源に恵まれており比較的交通量の多い道路に面している。このため、道路案内等の来庁者も多く、また、バス停が設置されていることから十分な広報効果が見込めると考え選定した。

啓発標識は森林を火災から守るため、鈴鹿市内で過去に発生した林野火災などの火災が発生した箇所を選定した。拍子木は、地域防災に密着した活動を行える自主防災隊を中心に配布する。自主防災隊へ配布することで火災予防のほか大規模地震発生後に一時避難し、留守宅が増えることで地域の治安が悪化し、自警等の治安維持活動を行う必要がある場合等で活用することもできる。また、配布にあたっては消防団を通して行い、地域防災の中心的存在である消防団と自主防災隊との関係強化を図る。

【実施した効果】

火災予防の看板や標識を設置し注意を促すことで、森林や林野でのタバコの投げ捨てや焚き火防止等の効果を見込むことができ、火災による森林荒廃防止などにつながる。

拍子木は、自主防災隊や幼年・少年消防クラブへ配布し、火災予防活動を行うことで地域における安全・安心の確保につながる。また、幼年・少年消防クラブへ配布し木材に触れる機会を作ることで幼少年期からの木育のきっかけとなる。

【実施箇所の今後の管理体制】

啓発案内看板及び啓発標識は、鈴鹿市消防本部で管理し、必要に応じて盤面の交換も行う。拍子木に関しては、配布した自主防災隊、幼・少年消防クラブ及びHiまわり分団で管理する。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

啓発案内看板には、登山ルートマップの通報ポイントが記載されていることから、山岳遭難事案発生時の作戦会議や現場把握にも活用する。

また、一部の啓発標識に関しては、火災予防啓発のポスターを用いているため、定期的に交換する。

拍子木は、引き続き、自主防災隊及び幼・少年消防クラブが火災予防運動や消防訓練などの際に活用する。また、Hiまわり分団員による紙芝居等の催し物で利用する。

【実施内容に対する住民等の反応】

この事業において、啓発案内看板や啓発標識、拍子木に触れ合うことで森林を身近に感じてもらうことができ、市民から喜びの声をいただいている。

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

鈴鹿市消防本部により発注し、購入した。

【実施方法の選定理由】

火災からの森林保護や防火啓発につながる火災予防活動であるため、消防本部で対応した。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札(看板95%, 拍子木88%)
随意契約(パネル, S字フック)1者見積

【契約相手方の選定理由】

県内において、三重県産木材を仕入れ加工ができる業者を選定。また、登山ルートマップの図版を作成、加工ができる業者を選定。

【事業費の積算根拠】

啓発案内看板及び啓発標識は3者から、拍子木は4者から参考見積書を徴取し、予定価格を設定した。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
9	基本	森と親しみ,暮らしを守る啓発事業
事業費	4,588,866 円(うち交付金	4,588,866 円 うち基金活用 0 円)

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 自主防災隊(305組7万7,359世帯), 幼・少年消防クラブ(約2,700人), Hiまわり分団員(15人)を受益者として設定。その他人数の把握は困難であるが, バス利用者や保育園児などのほか, 多数の県民への波及効果が期待できる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく, 該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 啓発案内看板や啓発標識の設置箇所は, 市有地であるため, 転用等が想定されず, 該当しない。拍子木は, 自主防災隊, 幼・少年消防クラブ及びHiまわり分団での使用のため, 該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 拍子木を配布する際には, 自主防災隊及び幼・少年消防クラブ, Hiまわり分団に対して税を活用して実施することを説明した。</p> <p>【実施中の実績】 幼・少年消防クラブの活動や自主防災隊の訓練などの際に, また, Hiまわり分団においては紙芝居等の催し物の際に税を活用して拍子木を作成したことを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 看板, 標識及び拍子木には, 「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」により実施したことが分かるように表示し周知させた。</p> <p>【今後の見込】 設置した看板や標識には, 当該交付金を活用した事業であることを明記していることから継続して周知することができる。また, 市の広報紙へ掲載する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森と親しみ、暮らしを守る啓発事業
-----	------------------

7. 写真



写真1
啓発案内看板(表面)
鈴鹿市中央消防署鈴峰分署

写真2
啓発案内看板(裏面)
鈴鹿市中央消防署鈴峰分署



写真3
啓発標識A
(国府地区・栄地区・玉垣地区・河曲地区・椿地区)

写真4
啓発標識B
(飯野地区・国府地区・天名地区・河曲地区)



写真5
拍子木

写真6
拍子木(Hiまわり分団による周知)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
10	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	2,339,380 円(うち交付金 2,339,380 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	小学生を中心とした子どもと保護者が、森や緑の大切さについて学び、ふれあうことにより、多くのあらゆる世代の市民が、森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市立公民館において、各公民館運営委員会に「森と緑の生涯学習講座」として委託し、小学生を中心とした子どもと保護者が、夏休みなど長期休暇を利用しながら、年3回程度、間伐材を使用した木工教室、フィールドワーク、製材所等の見学等の森林環境学習を実施した。また、講座実施公民館において、県産材を使用したテーブルや椅子の木製品を導入し、木にふれあう機会を提供した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 11公民館(庄内, 石薬師, 庄野, 加佐登, 箕田, 飯野, 長太, 栄, 合川, 鼓ヶ浦, 郡山)</p> <p>【事業量】 講座実施回数 10館×3回, 1館×4回 合計34回 テーブル・椅子の導入 9館(テーブル 6台, 椅子(1人用) 14台, 椅子(3人用) 20台)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 小学生を中心とした子どもと保護者など 延べ参加者数 955名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 森林学習について意欲的に取り組み、工夫された企画を実施することにより、森林への理解が深まることが期待される公民館を選定した。</p> <p>【実施した効果】 各館において、木工教室やフィールドワークなどの森林学習を通じて、学習参加者が森や緑の大切さを学ぶことができた。また、県産材のテーブル、椅子の導入により、公民館来館者に対して、森や緑の大切さについて周知し、理解を深めてもらうことができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 施設等整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 平成30年度も引き続き、各館において創意工夫を凝らした「森と緑の生涯学習講座」を検討し、子どもを中心とした市民に対して、理解周知に努める。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 アンケート調査を行った。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
10	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	2,339,380 円(うち交付金	2,339,380 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 生涯学習，地域の交流拠点として地域にある公民館は事業実施に最適な場所であり，「森と緑の生涯学習講座」については，他の公民館事業と同様，地域住民で構成された公民館運営委員会に委託することが必要と考える。県産材の製品の導入については，予算の範囲内で製作可能な事業者に委託することが妥当であると判断した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 「森と緑の生涯学習講座」・・・随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号） 「県産材の木製品導入」・・・随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号） 落札率99.27%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 「森と緑の生涯学習講座」・・・公民館運営委員会が，地域の生涯学習，交流の拠点である公民館の運営を担っているため。 「県産材の木製品導入」・・・公募型プロポーザル方式により2事業者から提案をもらい，審査結果により，事業者を選定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 「森と緑の生涯学習講座」・・・11館 740,980円 「県産材の木製品導入」・・・テーブル×6，椅子(1人用)×14，椅子(3人用)×20 一式 1,598,400円</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 「森と緑の生涯学習講座」については，955名の参加。事前申込み制とし，当日の参加者数を把握した。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく，該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公民館事業であるため，転用等が想定されず，該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 公民館の講座チラシや毎月発行する公民館だよりにおいて，交付金事業である旨を記載し，地域の回覧板や市ホームページや各小学校で講座の案内と募集を行った。</p> <p>【実施中の実績】 講座の冒頭などに，講師から説明を行うとともに，資料などに交付金事業の掲載を行った。</p> <p>【実施後の実績】 講座終了後，公民館だよりなどで，内容の周知を行うとともに，公民館に常設するテーブル，椅子については，「みえ森と緑の県民税」を活用した製品であることを明記した。</p> <p>【今後の見込】 テーブル，椅子については，公民館に常設し，来館者に使用してもらうことで，周知を行う。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

鈴鹿市

事業名

森と緑の生涯学習事業

7. 写真



写真1

ネイチャーゲームとカードンドック作り
森の大切さをカードを使って理解しましょう(庄内公民館)



写真2

ネイチャーゲーム(加佐登公民館)



写真3

マガジンラックづくり(箕田公民館)



写真4

ジャングルジムを作って遊ぼう(飯野公民館)



写真5

ネームプレートづくり(長太公民館)



写真6

マグネットボードを作ろう。講師から森と緑の県民税の話。(栄公民館)

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

鈴鹿市

事業名

森と緑の生涯学習事業

7. 写真



写真7

木工工作教室(鼓ヶ浦公民館)



写真8

テーブル・椅子の導入(郡山公民館)



写真9

テーブル・椅子の導入(庄内公民館)



写真10

テーブル・椅子の導入(庄野公民館)



写真11

テーブル・椅子の導入(長太公民館)



写真12

テーブル・椅子の導入(箕田公民館)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
11	基本	公立保育所保育遊具購入事業
事業費	5,717,520 円(うち交付金 5,717,373 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	鈴鹿市立保育所における幼児用の保育備品について、三重県産木材を使用したままごと用遊具等を購入することにより、園児の遊びを通して、木とふれあう機会や木の持つ温かみを感じる機会を増やし、園児の森や緑を大切に思う気持ちを育む。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 ままごと用キッチン、冷蔵庫、衝立、園庭用ミニログハウス、木製遊具(引き車)を購入し、市内の公立保育園に設置した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく。該当しない。</p> <p>【箇所数】 公立保育所全10箇所(牧田、白子、神戸、玉垣、合川、河曲、算所、深伊沢、西条、一ノ宮)</p> <p>【事業量】 ままごと用キッチン、冷蔵庫、衝立各10台 園庭用ミニログハウス8台(※要望があった保育所のみを設置) 木製遊具引き車8台</p> <p>【事業実施期間】 平成29年12月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 公立保育所に在籍する園児:約1200人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 市内の全公立保育所を対象とした。</p> <p>【実施した効果】 無機質、画一的なプラスチック製品ではなく、木材の持つあたたかさや自然の木目模様など、プラスチック製品では感じることが出来ない木製品の良さを園児が遊びを通して感じ、園児の森や緑を大切に思う気持ちを育むことができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 各保育所にて、メンテナンス等の管理を行っていく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 毎年、入所してくる園児が遊具を使用することができ、広く木製品に触れ合う機会を供給することができる。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 購入した遊具にて遊ぶ幼児の姿を見ることを通じて、保護者が本事業「みえ森と緑の県民税」の運用事例を始めて体感することができ、保護者自らも森と緑を大切に思う気持ちを育むことができた。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
11	基本	公立保育所保育遊具購入事業
事業費	5,717,520 円(うち交付金 5,717,373 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 県内で実績のある業者による指名競争入札を行い、落札者に委託した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(6者指名) 落札率:78.8%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 指名競争入札を行い、最も価格が低い業者を落札業者として決定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 公立保育所に在籍している園児を受益者とした。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公立保育所への木製品導入であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 保育所にて発行するお知らせにて、「みえ森と緑の県民税」により子どもの保育遊具が整備されることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 物品の購入であり「実施中」に該当する期間がないため、実施前後に周知した。</p> <p>【実施後の実績】 保育所にて発行するお知らせにて、「みえ森と緑の県民税」にて整備できた遊具を紹介した。</p> <p>【今後の見込】 今後、保育所に在籍する幼児や保護者が、整備された遊具を日頃の保育の中で触れて過ごす中で、県民税のマークを目にすることで周知していく。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 公立保育所保育遊具購入事業

7. 写真



写真1
ままごと用キッチン



写真2
ままごと用冷蔵庫



写真3
ままごと用衝立



写真4
園庭用ミニログハウス



写真5
木製遊具(引き車)

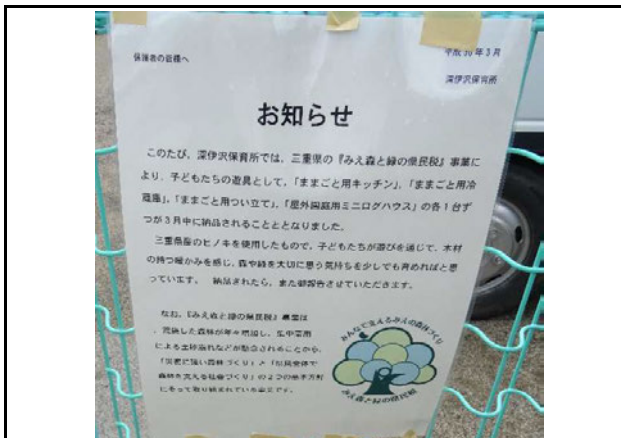


写真6
事業PR

白 紙

白 紙

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	里山・竹林生活環境保全支援事業
事業費	2,165,625 円(うち交付金	2,165,625 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	市内の里山や民家周辺の竹林は利用されずに放置されてヤブ化している。これらの荒廃した里山や竹林を再生し、民家周辺の生活環境の向上や地域住民の憩いの場、環境教育の場として利用することを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 地域住民が組織する団体等が、地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、持続的に民家周辺の道路に隣接した里山や民家周辺の竹林を整備に要する費用に対して支援する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 自治会、地区コミュニティ、地域まちづくり協議会、NPO団体、森林保全任意団体</p> <p>【補助率等】 補助率10/10 1団体 1回限り 3年以内で100万円以内とする。</p> <p>【箇所数】 5箇所(杓掛地区、白川地区、楠平尾地区、久我地区、安坂山地区)</p> <p>【事業量】 整備を行う里山・竹林の面積 約5ha</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって生活環境が向上する集落:5地区(589戸、1,442人)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 実施箇所は活動団体による選定。補助申請箇所について写真又は現地を確認し決定している。</p> <p>【実施した効果】 ・荒れた里山の働きを復元するための樹木の伐採・下刈り等を実施したことで、地域の安全性の確保、生活環境の向上や獣害対策にも繋がった。また、自然環境の大切さを学ぶ場を子どもたちに提供できた。(楠平尾地区・安坂山地区) ・地域住民が協力し、通行に支障がある道路沿いや地域で活用する公園等を整備したことにより、生活環境の向上や獣害対策にも繋がった。また、協働することで、薄れがちな地域の絆を回復するきっかけとなった。(久我地区・杓掛地区・白川地区)</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 補助対象事業終了後も継続して里山保全活動を実施。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 地域住民が安心して通行している。(久我地区・白川地区)・地元小学校の総合学習として活用している。(楠平尾地区・安坂山地区)今後も維持管理に務め、地域の安心・安全を守る。また、子どもたちに自然環境の学習の場として提供していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 地域の安全性が確保され、景観も良くなった。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	里山・竹林生活環境保全支援事業
事業費	2,165,625 円(うち交付金	2,165,625 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 住民が整備したい箇所を選べる。また、資機材等を補助することにより、住民自ら整備に携われる。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 1団体につき、3年間で100万円以内</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない</p> <p>【事業費の積算根拠】 活動に必要な経費を収支予算・決算書、見積もりや領収書のコピーなどで内容を確認している</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:活動地域の人口(戸籍市民室資料による) 参加者:会員人数</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 里山保全活動に関する承諾書を得ている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用の恐れがないところで実施している。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 補助申請者(代表者)に申請時に周知をお願いしている。税を活用して実施する計画の事業をホームページに掲載している。</p> <p>【実施中の実績】 補助申請者(代表者)に申請時に周知をお願いしている。</p> <p>【実施後の実績】 標柱等を設置しPR。また、ホームページで実績を掲載し周知している。</p> <p>【今後の見込】 標柱等の設置やホームページにて掲載し周知する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 亀山市

事業名 里山・竹林生活環境保全支援事業

7. 写真



写真1
楠平尾ササユリ保存会(整備前)



写真2
楠平尾ササユリ保存会(整備後)



写真3
白川地区まちづくり協議会(整備後)



写真4
久我自治会(整備後)



写真5
杓掛自治会(整備後)



写真6
池山里山づくりの会(整備後)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	安全な通学路整備事業
事業費	496,800 円(うち交付金 496,800 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	通学路沿いで、私有林に植生した樹木が、倒木・枯損木、枝葉が通学路へ危険を及ぼす恐れのある木々の伐採または、剪定を行い、子どもたちの通学路の安心・安全を守る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 通学路沿いの倒木・枯損木の伐採及び枝葉の剪定を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 伐採及び剪定箇所 1箇所(太岡寺町地内道野地区の通学路)</p> <p>【事業量】 延長約46m</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 通学する児童数神辺小学校(道野地区)13人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 学校、自治会及び保護者からの要望。</p> <p>【実施した効果】 伐採や剪定を行うことにより、周囲が明るくなり見通しが良くなり子どもたちの安心・安全に繋がった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 今後の整備は、地権者をお願いしている。また、通学路沿いの草刈は自治会で定期的実施していただけるように依頼。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 通学路として引続き利用するとともに自治会で定期的草刈を実施する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 子どもたちの通学路の安心・安全が図られたため喜ばれている。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	安全な通学路整備事業
事業費	496,800 円(うち交付金	496,800 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 住民及び森林所有者による整備が困難な通学路を市が整備することによって、通学路沿いの整備が進む。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:随意契約(見積り)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林施業に実績のある業者を選定</p> <p>【事業費の積算根拠】 現地にて市、業者、森林所有者との打合せ後に参考見積りを徴収し積算。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 通学する生徒・児童数を教育委員会に調査依頼。(道野地区 13人)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者から事業実施の同意を得て市が実施</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用の恐れがないところで実施している。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 自治会への作業実施周知回覧に税事業を表示</p> <p>【実施中の実績】 作業看板に税事業を表示</p> <p>【実施後の実績】 HPで実績を掲載し周知している。</p> <p>【今後の見込】 整備箇所の市HPへ掲載</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 亀山市

事業名 安全な通学路整備事業

7. 写真



写真1
太岡寺町(伐採・剪定前)



写真2
太岡寺町(伐採・剪定後)

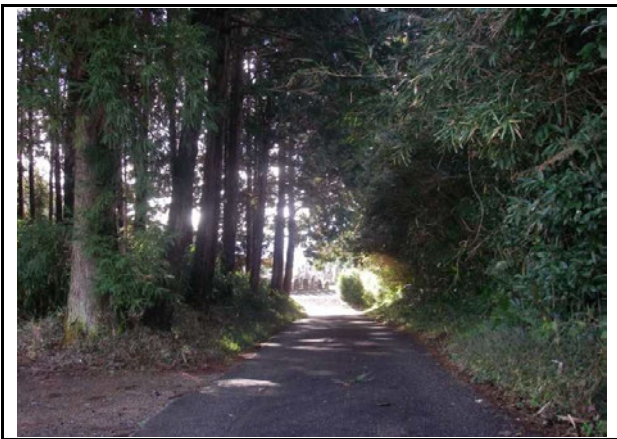


写真3
太岡寺町(伐採・剪定前)



写真4
太岡寺町(伐採・剪定後)



写真5
作業中



写真6

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)
事業費	12,941,640 円(うち交付金	12,941,640 円 うち基金活用 1,709,702 円)

1. 事業の目的	鈴鹿川等源流域での荒廃した森林を防災・減災の観点から適正な整備や管理を行い、併せて森林の持つ水源の涵養機能等の維持増進を図る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 県ゾーニングにおける環境林において、森林所有者、事業者と市が森林管理協定を締結し、荒廃した森林の間伐を行い、針広混交林化を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 7箇所(白木町花ノ木谷地区、安坂山町仙ヶ嶽地区、加太南部神武地区、加太北部板屋地区、坂下口若妻地区、坂下上石倉地区、市瀬字転石地区)</p> <p>【事業量】 間伐:112.73ha 受光伐:4.55ha</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 鈴鹿川等源流域での荒廃している環境林に位置づけられた森林(保安林)において、森林の持つ水源涵養や土砂災害防止など多様な公益的機能を維持・発揮するため。</p> <p>【実施した効果】 荒廃した森林の間伐及び受光伐を実施したことで、森林内が明るくなり、植生の回復が期待できる。また、森林の持つ水源の涵養機能等の維持増進が図られた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者、事業者と市が森林管理協定に基づき管理していく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 事業による取組をHPで紹介する。また、森林管理協定に基づき管理する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 適正な森林整備を行ったことで森林管理所有者などから評価をいただいている。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)
事業費	12,941,640 円(うち交付金	12,941,640 円 うち基金活用 1,709,702 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 随意契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林所有者、事業者と市が森林管理協定を締結している箇所を選定。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 落札率:98%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林所有者と協定を締結している事業者。</p> <p>【事業費の積算根拠】 森林環境創造事業実施単価表に基づき算出。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 環境林づくり協定書に基づき適正に管理する。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 環境林づくり協定を締結し転用等を規制。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 亀山市森林管理協議会にて周知</p> <p>【実施中の実績】 市HPで周知する。</p> <p>【実施後の実績】 市HPで周知する。</p> <p>【今後の見込】</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 亀山市

事業名 鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)

7. 写真

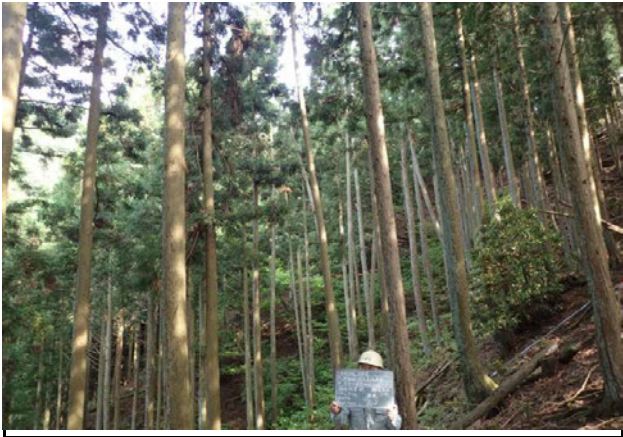


写真1
加太南部神武地区(着工前)

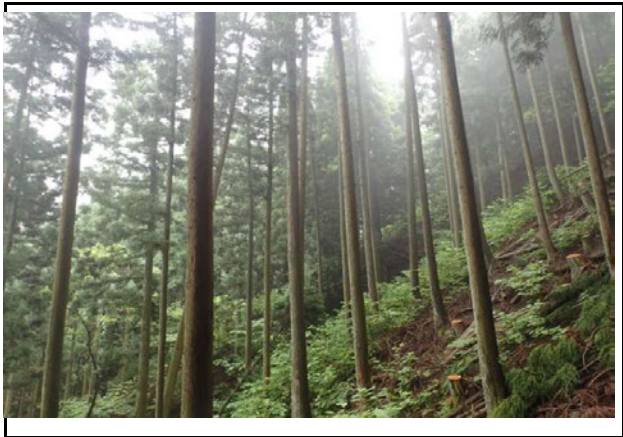


写真2
加太南部神武地区(着工後)



写真3
白木町花ノ木谷地区(着工前)



写真4
白木町花ノ木谷地区(着工後)



写真5
安坂山町仙ヶ嶽地区(着工前)



写真6
安坂山町仙ヶ嶽地区(着工後)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森と木材のふれあい事業
事業費	2,529,185 円(うち交付金	2,425,185 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	森林とふれあいながら、森林や緑を大切に思い、育む人づくりのため、児童・生徒をはじめ様々な市民に、森林や木材について学び・ふれあう機会を提供し森林と木材と市民との関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座:チェーンソーによる間伐等 ・木育教室:丸太切り体験、木の実工作など ・森の学校屋外編:森林公園「やまびこ」にて森とふれあうイベントを2回開催 ・森の学校屋外編:市内4小学校にて木工教室を開催 <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の講座の開催:1回(2日間コース) ・木育教室の開催:3回 ・森の学校屋外編「森とふれあう」開催:2回 ・森の学校屋外編「木材とふれあう」:市内4小学校にて開催 <p>【事業量】 森の学校屋内編「木材とふれあう」市内4小学校にて木工工作(亀山市産材使用量:3.5㎡)、木育教室、森の学校屋外編「森とふれあう」にて自然素材活用した工作など。</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 参加者:422名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 亀山市みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画及び亀山森林公園利活用計画に基づき選定</p> <p>【実施した効果】 参加者を子どもから大人まで幅広い年齢層の方を対象としているため、多くの方々に森林の持つ機能、間伐材の有効利用や木材の良さをPRできた。森の学校屋内編では、児童たちが亀山市産材に直接触れ木のぬくもりを実感できた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市(やまびこ)による管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 今後も、引き続き森林公園「やまびこ」を活用しイベント等を開催する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 講習の参加者からは、技術の習得ができ大変良かったとの声や、イベントの参加者からは、体験の内容、公園内の観察・散策ができ、よかったとの感想をいただいた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森と木材のふれあい事業
事業費	2,529,185 円(うち交付金 2,425,185 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 ・森の学校屋外編「森とふれあう」:委託 ・森の講座:委託 ・その他:直営(市)</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林の整備に実績及び環境教育の経験がある業者を選定し委託。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:随意契約(見積り) 落札率:99.6%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林の整備に実績及び環境教育の経験がある業者と随意契約。随意契約にあたっては、複数者の見積りを徴収し予算の範囲内で実施。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴取したところ、予定価格以内であった。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 森林の講座・木育教室・森の学校屋内外編の参加者数:422名 その他、森の学校屋内編参加児童の家族等にも波及効果が期待できる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 該当なし</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 受講者並びに参加者の募集について、市広報、市安心メール、チラシ掲示などにて周知</p> <p>【実施中の実績】 事業開催時には、必ずこの事業開催費用はみえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用していると伝えている。また、県民税パンフレットの配布、県民税のぼり旗にて啓発。</p> <p>【実施後の実績】 事業内容が新聞記事や市広報紙に掲載、また、ケーブルテレビにて放送されたため、参加者以外にも周知、啓発ができた。</p> <p>【今後の見込】 これらを事業を継続して取り組みながら税事業であることを周知する。事業を実施することにより、木材の大切さを理解してもらえる。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

亀山市

事業名

森と木材のふれあい事業

7. 写真



写真1

森の講座:チェーンソーによる間伐体験



写真2

サマーフォレストinやまびこ(8月11日開催)



写真3

木育教室(加太小学校)



写真4

菌打ち体験



写真5

木育教室(亀山トリエンナーレ2017)



写真6

森の学校屋内編「木材とふれあう」

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)
事業費	681,452 円(うち交付金	681,452 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	鈴鹿川等源流域での荒廃した森林の間伐により、放置された林地材が下流への流出が懸念されるため、バイオマス利用を図ることで木材の有効利用を図るとともに、豪雨時の山林からの木材流出を防止する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 整備等から発生した林地残材の搬出・運搬に対する支援を行い、木質バイオマス資源の利用促進を図り、河川等に流出しない森林づくりを図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 林業事業体</p> <p>【補助率等】 間伐施業地からチップ工場まで定額(720円/m³)</p> <p>【箇所数】 3箇所(加太中在家、加太北在家、加太板屋)</p> <p>【事業量】 947.42m³</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月1日～平成30年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 林業事業体による林地残材箇所を選定。</p> <p>【実施した効果】 林地残材の有効利用を図ったことで、森林の適正な管理につながるるとともに豪雨時の木材流出が防止できた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者による管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林の持つ多面的機能が発揮される森林として維持する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 未利用木材を搬出することによって、森林内の景観がよくなる、また、災害時の木材流出量が軽減されることによる暮らしの安心・安全の向上。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)
事業費	681,452 円(うち交付金)	681,452 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 搬出経費に対する定額補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 放置された林地残材の下流への流出防止を軽減するため。また、搬出した林地残材を木質バイオマス発電燃料として利用促進を図るため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 定額助成(間伐施業地からチップ工場まで720円/m³)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 事業の実施の権限を所有者から委任された者。</p> <p>【事業費の積算根拠】 間伐施業地からチップ工場まで定額(720円/m³)</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者による管理。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 なし</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 亀山市森林管理協議会にて周知</p> <p>【実施中の実績】 ホームページで紹介</p> <p>【実施後の実績】 市ホームページにて実績を紹介。</p> <p>【今後の見込】 継続して市ホームページなどで周知する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 亀山市

事業名 鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)

7. 写真



写真1
搬出前

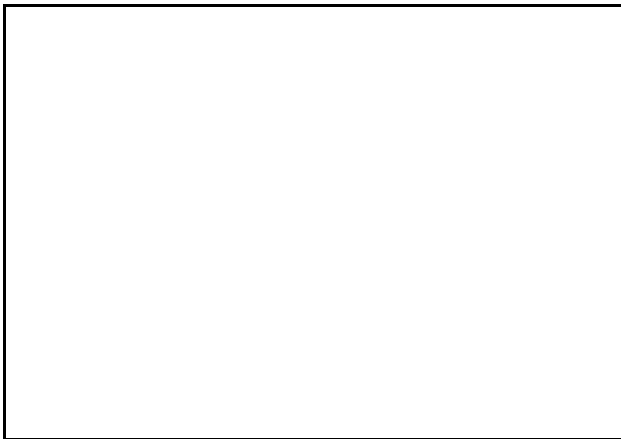


写真3

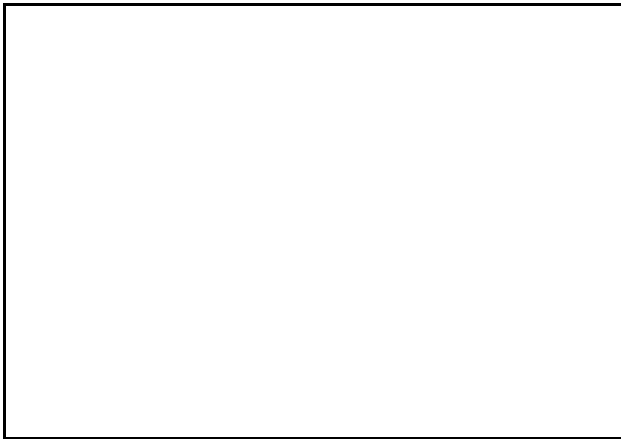


写真5



写真2
搬出後



写真4

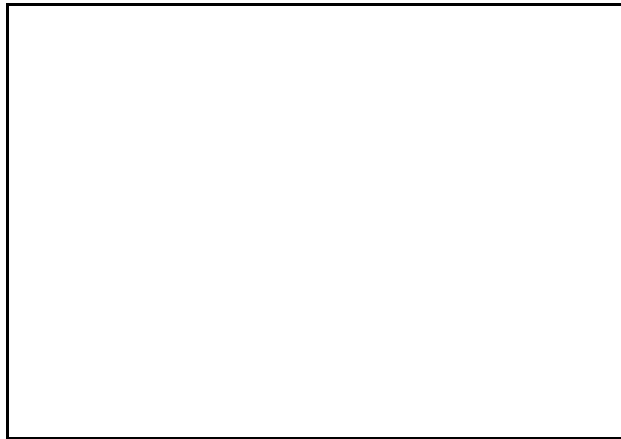


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	特別	川崎小学校改築事業
事業費	821,611,080 円(うち交付金	2,898,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
川崎小学校は、近年、校区内児童数が増加傾向にあり、平成28年度以降には教室不足となります。また、既存校舎については、複雑な避難経路など児童の安全面にも問題を抱えています。これらを解消するため、本事業を実施しますが、校舎建築にあたっては「亀山市公共建築物等木材利用方針」及び「亀山市立川崎小学校改築基本計画」に掲げる「木材をふんだんに利用した校舎とする」という方針に基づき、校舎内の木質化を図ります。
2. 事業実績概要
【事業内容】 〔事業費〕1期工事:821,611千円 〔事業予定期間〕平成28年度～平成30年度(うち1期工事:平成28年度～平成29年度) 〔事業の規模〕校舎内木質化:天井345㎡ほか
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 亀山市
【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない
【箇所数】 川崎小学校北棟廊下天井、南棟廊下天井2箇所
【事業量】 校舎内木質化:天井345㎡ほか 県産材使用量:4.282㎡
【事業実施期間】 平成28年度～平成30年度(うち1期工事:平成28年度～平成29年度)
【受益者、参加者、利用者数等】 川崎小学校児童数:427人(H29.5.1現在) 校舎内を利用している市民団体等:4団体
3. 有効性
【実施箇所の選定理由】 児童数の伸び及び校舎の現状から優先順位を決定した。
【実施した効果】 校舎内を地域産材で木質化することにより、児童及び学校を訪れる住民が木と触れ合う機会を増やし、木の大切さや良さ等実感してもらえた。
【実施箇所の今後の管理体制】 学校施設として、教育委員会が管理していく。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 児童に対しては学年ごとの授業において、森林環境教育又は木育を実施する。また、学校を訪れる住民に対しては県民税を活用して校舎内木質化を行っている旨の表示を行い、それを見てもらえるようにする。
【実施内容に対する住民等の反応】 木質化したことにより、校舎内が落ち着いた雰囲気となり、好評を得ている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	特別	川崎小学校改築事業
事業費	821,611,080 円(うち交付金 2,898,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による校舎建築工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 校舎建築工事の中で整備する内装材であることから、工事請負契約に含めた。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:一般競争入札 落札率:98%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札による落札業者</p> <p>【事業費の積算根拠】 業務委託により、「公共建築工事積算基準」等を用いて設計・積算を行った。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 川崎小学校児童数:427人(H29.5.1現在)、校舎内を利用している市民団体等:4団体 数については、学校へ調査依頼</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 特になし</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用及び目的外使用はない</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 市のホームページに税事業を明示した。</p> <p>【実施中の実績】 工事現場の仮囲いに税事業を明示した。</p> <p>【実施後の実績】 完成後の校舎内に税事業を明示した。</p> <p>【今後の見込】 市のホームページ及び完成後の校舎内に税事業を明示する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	川崎小学校改築事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
校舎南棟廊下



写真2
校舎内における税事業明示



写真3
工事現場仮囲いへの税事業明示

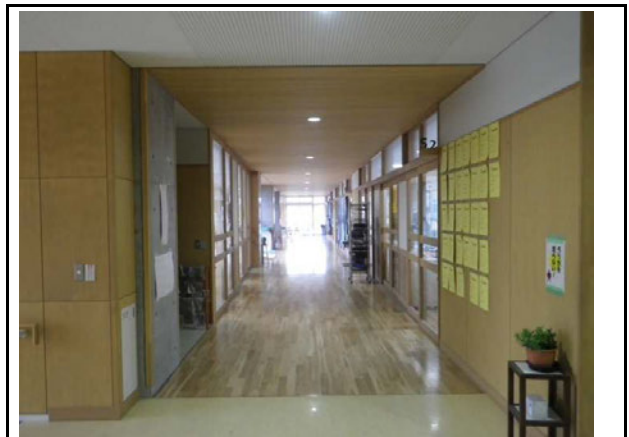


写真4
校舎北棟廊下



写真5

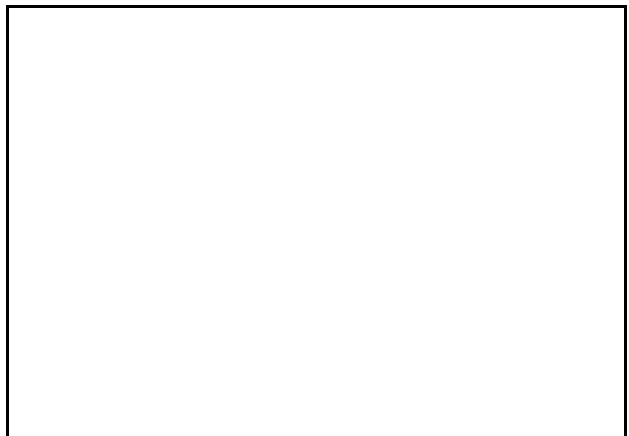


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	緑あふれるまちづくり支援事業
事業費	98,000 円(うち交付金	98,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	都市の緑は、市民に潤いと安らぎを与えてくれるとともに、身近で貴重な自然であり、美しいまちづくりを進める上で重要な役割を果たしている。このため、地域まちづくり協議会や市内の工場・事業所が行う緑の環境づくりを進める活動に対し支援する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 地域まちづくり協議会や市内の工場・事業所が実施する緑化活動に要する費用に対して支援する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域まちづくり、協議会市内の工場・事業所など</p> <p>【補助率等】 ・補助率10/10 1協議会1回限り、30万円以内とする。 ・工場立地法第6条第1項に定める工場・事業所(敷地面積9,000㎡又は建築面積3,000㎡以上) 補助率10/10 1回限り、30万円以内とする。 ・上記以外の敷地面積3,000㎡以上の工場・事業所補助率10/10 1回限り、20万円以内とする。</p> <p>【箇所数】 1協議会(竜川沿い)</p> <p>【事業量】 ハナミズキ:15本、れんげ草の種:1,000kg</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 野村地区:1,031世帯 2,144人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 植樹活動を希望している協議会にて実施箇所を選定。</p> <p>【実施した効果】 植樹の経験が緑を育てる楽しさや緑の大切さを実感することにつながる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 地域自らが維持管理していく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 交付金の活用を標柱にて周知するとともに日頃の管理をすることで緑の大切さを感じられる。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 景観が良くなったのと木々の成長が楽しみとの声を聞いた。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	緑あふれるまちづくり支援事業
事業費	98,000 円(うち交付金	98,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業</p> <p>【実施方法の選定理由】 地域による苗木等の購入を支援し、地域で植樹をする経験が緑を育てる楽しさや緑の大切さを実感することにつながるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 ・補助率10/10 1協議会1回限り、30万円以内とする。 ・工場立地法第6条第1項に定める工場・事業所(敷地面積9,000㎡又は建築面積3,000㎡以上)補助率10/10 1回限り、30万円以内とする。 ・上記以外の敷地面積3,000㎡以上の工場・事業所補助率10/10 1回限り、20万円以内とする。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りによる積算</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 平成30年3月1日現在の1協議会の世帯数及び人口（戸籍市民室資料による）</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当なし</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 協議会と土地の所有者と10年間の賃借に関する契約を締結している。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地域づくり協議会が、植樹の参加者募集時に緑あふれるまちづくり支援事業を活用していることを周知。</p> <p>【実施中の実績】 標柱を作製と参加者にチラシを配布</p> <p>【実施後の実績】 植樹後に標柱を設置と市ホームページ、協議会発行の広報野村に実績を掲載。</p> <p>【今後の見込】 標柱が設置されている限り、周知できる。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 亀山市

事業名 緑あふれるまちづくり支援事業

7. 写真



写真1
野村地区まちづくり協議会(竜川沿い)



写真2
野村地区まちづくり協議会(竜川沿い)



写真3
野村地区まちづくり協議会(竜川沿い)

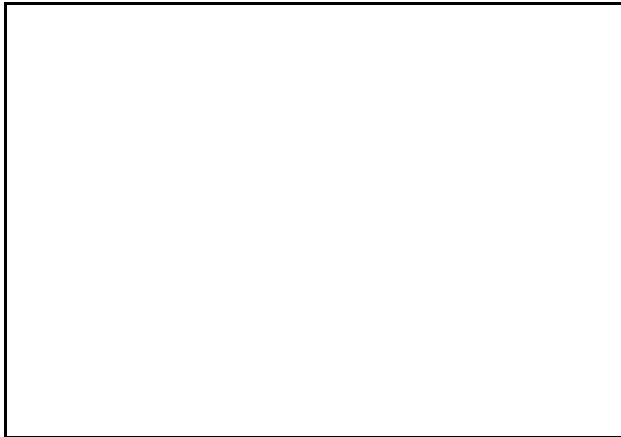


写真4

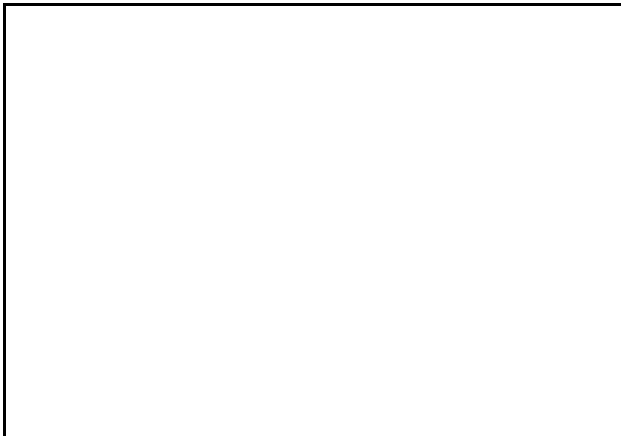


写真5

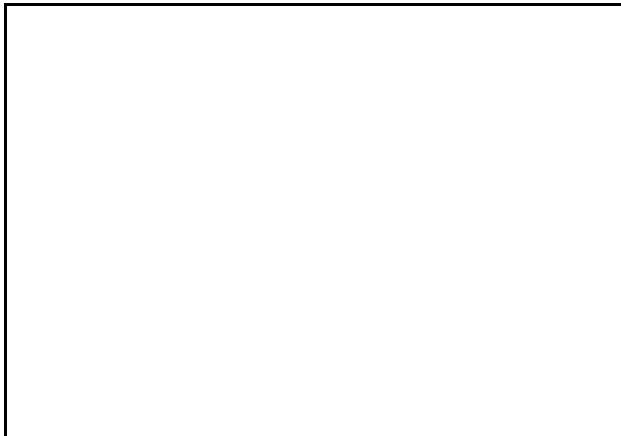


写真6

白 紙

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	中学校卒業記念品配布事業
事業費	844,000 円(うち交付金	844,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。 中学校の卒業記念として配布するため、箸製作では中学生自らがクラブ活動を通じてその製作に関わりながら『森を育む人づくり』を実践し、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらおう機会とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 箸製作にあたっては、【大安中学校テクニカルボランティア部】、箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【いなべ市障害者活動支援センター】に委託する。原木調達・加工作業は、【認定林業事業体(佐藤林業)】に委託する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 いなべ市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 いなべ市内各中学校(北勢中学校、員弁中学校、大安中学校、藤原中学校:計4校)の卒業生を対象に配布。</p> <p>【事業量】 中学校卒業生を配布対象にした箸製作。(箸500膳・箸袋500袋を製作。)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年7月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 市内中学校卒業生 500名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 中学校を卒業し、昼食等弁当を持参する機会も増えると思われる。その中で使用が見込める箸を通じて、木の良さと木材(いなべ市産材)の利用意識を実感してもらう。</p> <p>【実施した効果】 箸に利用した木材は、佐藤林業(認定林業事業体)がいなべ市内の市有林で作業した間伐材(桧)であり、間伐材の有効利用に繋がる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 箸製作にあたっては、大安中学校のテクニカルボランティア部に委託し、クラブ活動の一環の中で行ってもらっている。今後もこの形態で継続したいが、指導教員の退職によりクラブが廃部になる予定。教員の指導能力に頼るところが大きいので、生徒のみでの箸製作は困難と思われる。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 上記【実施箇所の今後の管理体制】に同じ。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 メッセージカードと共に記念品配布することで、木材について一考してもらう機会となった。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	中学校卒業記念品配布事業
事業費	844,000 円(うち交付金	844,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 随意契約。</p> <p>【実施方法の選定理由】 原木調達・素材加工については市内唯一の林業事業体である佐藤林業に、箸製作については生徒(中学生)自らが製作できるクラブ活動組織に、箸袋製作については社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 上記に同じ。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 上記に同じ。</p> <p>【事業費の積算根拠】 原木調達・加工費297,000円(見積委託)/箸製作費250,000円(500膳×単価500円) 見積委託/箸袋制作費297,000円(500袋×単価550円+消費税) 見積委託 計事業費844,000円</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 市内中学校卒業生 500名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 税の目的を踏まえた事業であり、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 委託業者に対し、県民税を活用した取組みを活用した取組みであることを伝えた。</p> <p>【実施中の実績】 配布する記念品に、県民税を活用した取組みであることのメッセージカードを添えた。</p> <p>【実施後の実績】 県民税を利用した記念品配布の様子を市の情報誌リンクで紹介。 事業が行われていることをHPで周知。</p> <p>【今後の見込】 来年度以降も継続して行っていく見込み。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	いなべ市
-----	------

事業名	中学校卒業記念品配布事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
原木調達・加工検査



写真2
箸加工・製作検査



写真3
箸袋製作及び袋詰め作業検査



写真4
完成品



写真5
配布の様子

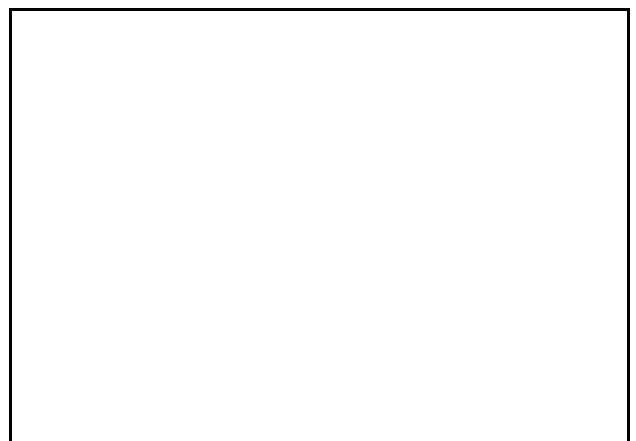


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	いなべ市環境防災林整備事業
事業費	1,431,000 円(うち交付金	1,431,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	市内生産森林組合の所有する山林は、組合員の高齢化に伴い山林作業がされておらず、放置森林となっている。また、近年集中豪雨や台風により、こうした放置森林のある人工林の山腹崩壊による土砂災害が懸念されている。これらを解消するため生産森林組合の所有する人工林を受光伐作業することにより広葉樹の更新を促し山地崩壊を防止する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 当該事業は山林所有者（東貝野生産森林組合）、作業者（認定林業事業体：佐藤林業）、いなべ市が森林に関する管理協定を締結し、いなべ市北勢町東貝野地区において人工林35haの間伐（受光伐）を行い、人工林と天然林の共生を図ることにより森林の保全を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 いなべ市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 いなべ市北勢町東貝野地区</p> <p>【事業量】 間伐（受光伐）4.91ha</p> <p>【事業実施期間】 平成29年9月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 要間伐森林 35ha 受益個数 116戸</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 当該地区の森林は生産森林組合員により植林を行っていたが組合員の高齢化にともない未保育のままである。また、整備すべき森林が林道より奥地に存在するため作業が困難である。植林されてからすでに40年以上経過した森林で、今回2回目の間伐作業である。</p> <p>【実施した効果】 杉、桧の人工林は間伐率40%以内の受光伐を行い、作業後は1ha当たり1,500本の成立本数となっている。山林内には十分な光が行き届きシダ類等の植生も見受けられ、広葉樹の天然更新を図る。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 要間伐森林 35ha うち毎年度4～6haの森林を計画的に間伐（受光伐）を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 上記【実施箇所の今後の管理体制】に同じ。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 当該生産森林組合から作業についての相談を受け着手した。また、当該森林は、いなべ市北勢町地区国有林に隣接する森林で、悟入谷川の水源地区に在する。水源涵養機能の高い森林で悟入谷川は東貝野地区の農業用水としても利用されている。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	いなべ市環境防災林整備事業
事業費	1,431,000 円(うち交付金	1,431,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 随意契約。</p> <p>【実施方法の選定理由】 作業委託業者は当該森林の管理協定者である。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 委託業者の見積額。 (見積額1,431,000円 内消費税106,000円)/(設計額1,591,000円 内消費税117,851円) 89.94%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 上記に同じ。</p> <p>【事業費の積算根拠】 県単価による設計額範囲内で、委託業者による見積額で契約。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 当該地区集落の戸数。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 税の目的を踏まえた事業であり、該当しない。森林管理協定が、平成37年3月31日の履行期限である。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 住民や自治会長に、みえ森と緑の県民税を活用して実施することを周知。</p> <p>【実施中】 工事看板を設置することにより、県民税を活用していることを周知。</p> <p>【実施後】 事業完了時には、看板等を設置し周知。 事業が行われたことを市のHPで公表。</p> <p>【今後の見込】 30年度までは継続する見込み。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 いなべ市

事業名 いなべ市環境防災林整備事業

7. 写真



写真1 完成検査①

写真2 完成検査②

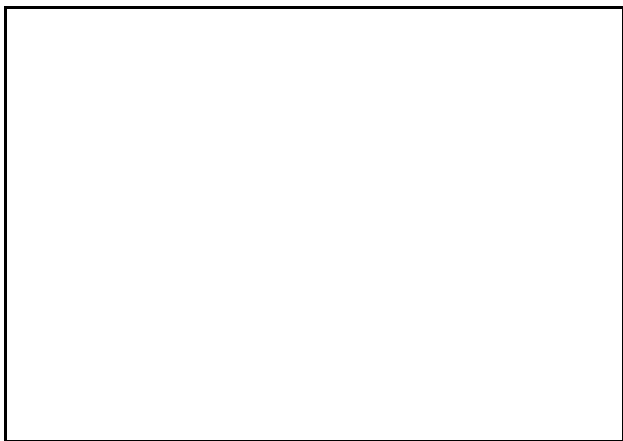


写真3 完成検査③

写真4

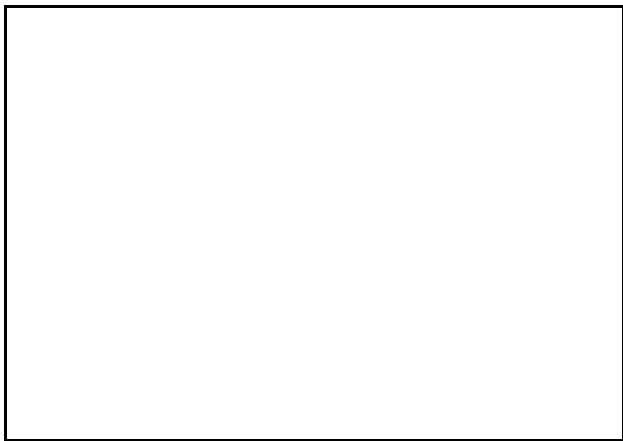
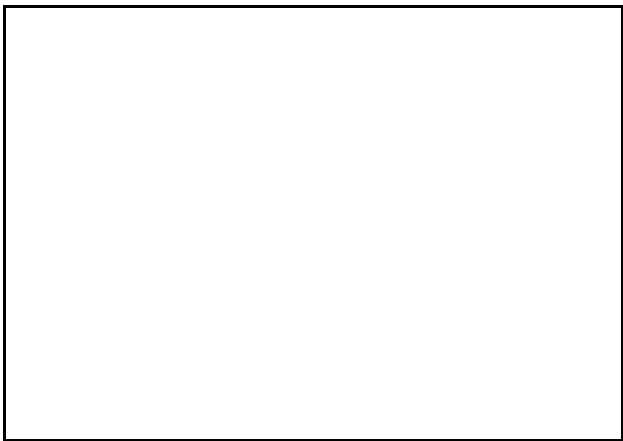


写真5

写真6

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	木曾岬町
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名	
1	基本・特別	複合型施設建設事業	
事業費	28,214,613 円(うち交付金	19,340,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的
複合型施設の建設に伴い、多くの町民が利用する施設の一部を県産材で木質化することにより、木づかいを通じて森林を支える。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 平成27年度から平成29年度に建設予定の複合型施設において、多くの町民が利用する施設の木質化を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 木曾岬町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない。</p> <p>【箇所数】 複合型施設の教育文化棟(図書館、町民ホール)延べ床面積1,554.92㎡の内、木質化の延床面積1,031.30㎡</p> <p>【事業量】 木質化 図書館(521.40㎡)、町民ホール(509.90㎡) 計 1,031.30㎡ 県産材使用量22.6634㎡</p> <p>【事業実施期間】 全体 平成27年9月18日～平成30年1月29日 H28 平成28年4月1日～平成29年3月31日 H29 平成29年4月1日～平成30年1月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 複合型施設の年間利用者数(見込み) 延べ50,000人</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 第三者による検討委員会において、検討した結果、最も工事費を抑えることができる既存庁舎の敷地内へ複合型施設(木曾岬ステーション、行政棟、教育文化棟(図書室、町民ホール))を建設することとしたものである。</p> <p>【実施した効果】 多くの町民が利用する施設となるもので、木質化することでPR効果が高い。また、床、階段、壁の一部を木質化するもので、施設全体で木材を利用し、木の薫る空間とする。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 町有施設であり、町で維持管理する。 大規模な修繕は町の単費での実施を見込んでいる。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 パンフレットや施設内において、木質化に係る財源が「みえ森と緑の県民税」であることを周知する他、森林に関する展示を実施することにより森林環境教育を実施する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 図書館の1月時点の平均利用者数は平日約80人、土日祝日約120人となっており旧館に比べ約10倍に増加している。木質化された教育文化棟に対する利用者の感想は、「きれい・清潔感がある」、「明るい、過ごしやすくなった・心地いい、落ち着く」、「木のいい香りがする」など、評価も非常に高く利用者数からも木質化の効果がうかがえる。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	木曽岬町
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本・特別	複合型施設建設事業
事業費	28,214,613 円(うち交付金 19,340,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業者との請負契約とした。</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設であり、町で発注・整備した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 町の契約事務規則に基づき、一般競争入札とした。平成27年度に契約した業者が木質化も実施した。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の契約事務規則に基づき、一般競争入札により最も安価な業者とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計業務をコンサルに業務委託し、詳細な積算としている。更にコンサルの成果品を検証する業務を建設技術センターに業務委託し適切に積算されていることを確認した。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 現状の役場、図書館等の利用者数から推定した。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であり、転用等の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 町広報誌により、税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板及び町広報誌により、税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 パンフレットや施設内において、木質化に係る財源が「みえ森と緑の県民税」であることを周知した他、行政棟及び教育文化棟の2個所で三重の森林の働き・森林整備の大切さを紹介したパネル展示を常時実施するとともに、「みえ森と緑の県民税」のパンフレットやPRグッズを配付している。</p> <p>【今後の見込】 行政棟及び教育文化棟の2個所で森林に関する展示を常時実施する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	木曽岬町として「木曽岬町公共建築物等木材利用方針」があり、本方針に基づき「森林を支える社会づくり」に引き続き取り組んでいく。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	木曾岬町
-----	------

事業名	複合型施設建設事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
町民ホール



写真2
図書館

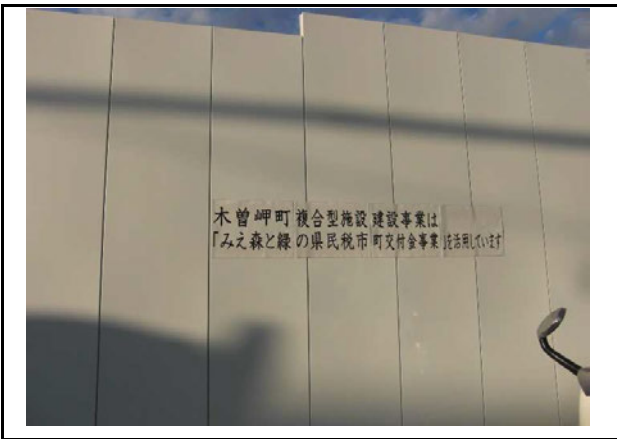


写真3
PR表示(施行中)



写真4
PR看板(町民ホール)



写真5
PR展示(教育文化棟)



写真6
PR展示(行政棟)

白 紙

白 紙

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	みえ森と緑の県民税市町交付金事業
事業費	5,579,280 円(うち交付金 5,572,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	暮らしに身近な森林を整備することにより、生活環境の保全や向上を図ります。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、これまで整備が進みにくく、荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として整備を集中的に実施し、人家裏や通学路沿いで倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行います。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 東員町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない</p> <p>【箇所数】 東員町笹尾・城山地区</p> <p>【事業量】 30本の枯松伐倒、138本の危険木伐倒、13本の危険木剪定 合計181本</p> <p>【事業実施期間】 平成29年7月31日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備により生活環境が向上する集合団地の戸数及び人数 230戸 800人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 平成26年度に実施した調査結果及び平成29年度については、隣地住民の聞き取りにより選定した樹木を追加</p> <p>【実施した効果】 地域住民の安全確保及び森林環境の改善</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 町において管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 危険木の除去が行われたことにより近隣住民の安全が確保されたことから、今後も計画的に管理を行い、森林が地域住民にとって憩いとなるよう景観にも配慮していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 住民生活の安全性が向上し、森林環境が改善され好意的である。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	みえ森と緑の県民税市町交付金事業
事業費	5,579,280 円(うち交付金	5,572,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 事業を円滑に実施するため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札等 平均落札率46.18%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札(一部見積もり競争)の結果。</p> <p>【事業費の積算根拠】 3者見積により最低価格を採用した伐倒単価、剪定単価。なお、単価には伐倒、剪定の作業費と持ち出しにかかる運搬費、再資源化を含む処分費をすべて含む。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備により生活環境が向上する集合団地の戸数及び人数 230戸 800人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 実施箇所について近隣地域へ回覧。民家裏等で伐倒樹木の選定を行う際に事業趣旨説明と選定樹木の確認のため戸別訪問を実施。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」と記載。</p> <p>【実施後の実績】 広報に平成29年度の実績を掲載予定。</p> <p>【今後の見込】 全体計画の最終年度には看板の設置</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
無し

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 東員町

事業名 みえ森と緑の県民税市町交付金事業

7. 写真



写真1
見通しの悪い通学路(カーブミラーが隠れている)



写真2
剪定後現地

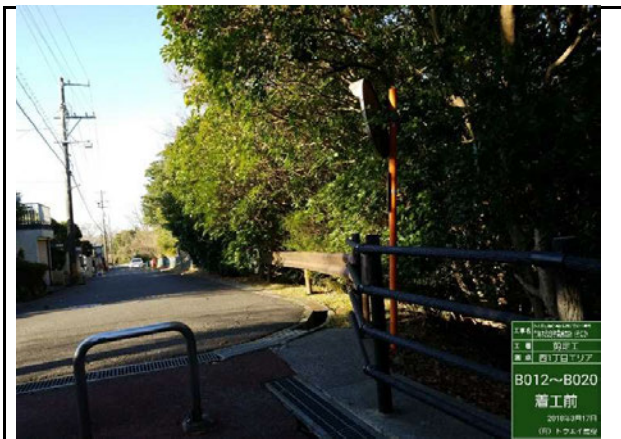


写真3
写真1現地反対側からの写真



写真4
剪定後現地

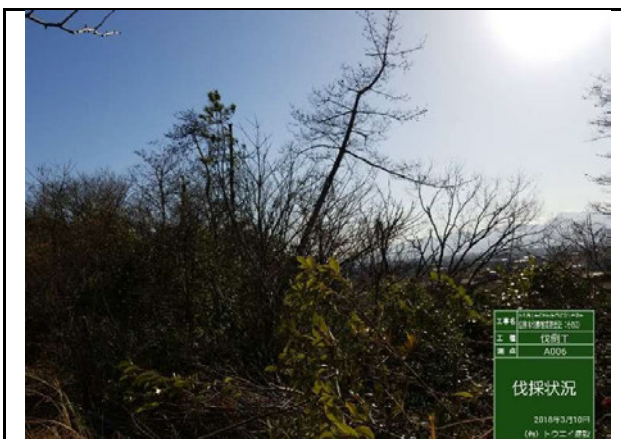


写真5
倒木が心配される枯松



写真6
枯松の伐倒作業写真

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	東員町
-----	-----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業
-----	------------------

7. 写真



写真7
民家裏に覆いかぶさる危険木



写真8
危険木伐倒状況



写真9
みえ森と緑の県民税事業の周知(工事看板)



写真10
みえ森と緑の県民税事業の周知



写真11
搬出状況1



写真12
搬出状況2

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	菰野町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	幼児期から木に親しむ木育推進事業
事業費	1,553,040 円(うち交付金	1,553,040 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
平成29年度に開設予定の北部子育て支援センターにおいて、子育て環境の木質化を図り、感性豊かな幼児期から木と触れあう環境を整備し、子どもの豊かな成長を支援する。また、木のおもちゃを通じて、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 県内産木材を活用した幼児用の木製の机や椅子を設置する。また、木製大型遊具(ログハウス、滑り台、トンネル等)の設置及び小型の木製おもちゃを配置する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(北部子育て支援センター)、朝上地区</p> <p>【事業量】 ログハウス、平均台2台、丸テーブル1台、棚付絵本立て1台、木製電子レンジ1台、木製流し台1台、木製冷蔵庫1台、オープン棚(大)(小)各2台、箱椅子4脚、トンネルジム1セット、木製玩具(犬型)3個、滑り台1台、</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成29年12月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用を見込む</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 北部子育て支援センターは平成29年度に開設予定であり、子育て環境の木質化を図り、感性豊かな幼児期から木と触れ合う環境を整備するため。</p> <p>【実施した効果】 木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。電子おもちゃでは難しい遊びの広がりや想像力の向上と、自然や環境に親しみを感じると共に木の文化の伝承につながる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 北部子育て支援センターにおいて管理する</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 子育て支援センターとして、子育て世代が木と触れ合い、交流出来る場だけではなく、木や自然に親しむ場(森林環境教育)として関係機関と連携を図り、木育事業を展開していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木材を使用した木製おもちゃはぬくもりを感じると保護者等にも好評である。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	菰野町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	幼児期から木に親しむ木育推進事業
事業費	1,553,040 円(うち交付金	1,553,040 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約 99.3%及び95.0%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 菰野町競争入札参加資格者名簿の物品で登録があり、さらに取扱い商品に「保育・幼稚園遊具」の登録があり、かつ本店の所在地が菰野町で登録があるもの。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積り価格を参考した。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用の見込み</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 町所有のため、該当なし</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 特になし</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 子ども・子育て会議などにおいて、県民税を活用している旨を周知した。</p> <p>【実施中の実績】 物品の購入であり「実施中」に該当する期間がない。</p> <p>【実施後の実績】 購入した物品においてはみえ森と緑の県民税を利用した旨を記載している。</p> <p>【今後の見込】 行事などにおいて、活用する際にPRしていく。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 菰野町

事業名 幼児期から木に親しむ木育推進事業

7. 写真



写真1
検収状況(丸テーブル、絵本立て)



写真2
検収状況(木製レンジ、木製流し台、木製冷蔵庫)



写真3
検収状況(オープン棚(大、小))



写真4
検収状況(箱椅子、トンネルジグ、木製玩具)



写真5
検収状況(滑り台)



写真6
ロゴマーク焼印

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

菰野町

事業名

幼児期から木に親しむ木育推進事業

7. 写真



写真7

ログハウス



写真8

平均台

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	菰野町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名	
2	基本	木の薫る安らぎを感じる憩いの場づくり事業	
事業費	4,104,000 円(うち交付金	4,104,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的
平成29年度に開設予定の北部子育て支援拠点施設内において、事務用品や事務機器など新たに調達する機材については、木材をふんだんに使った木の薫る空間を創り、安らぎを感じる憩いの場を提供する。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 県内産木材を活用した事務用品や機器を購入し設置する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(北部子育て支援センター)、朝上地区</p> <p>【事業量】 木製相談用椅子4台、木製事務机2台、タブレット閲覧用木製椅子2台、木製授乳用ソファ2台、木製コートハンガー2台、木製授乳用テーブル2台、木製乳幼児用テーブルチェア2台、木製事務机用キャスター付デスクワゴン2台、木製壁掛け予定表1台、木製ワゴン型おむつ交換台3台、木製間仕切り3連2段ロッカー5台、木製乳幼児用テーブル4台、木製3歳児用椅子4台、木製4歳児用椅子4台、木製5歳児用椅子6台、タブレット閲覧用木製机1台、木製パーテーション(大)10台、木製パーテーション(小)5台、木製パーテーション連結台10台、木製パーテーションコーナー用連結台4台、木製カウンター3台</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成29年12月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用を見込む</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 北部子育て支援拠点施設は平成29年度に開設予定であり、新たに調達する機材に木材をふんだんに使うことにより、木の薫る空間を創り、安らぎを感じる憩いの場とするため。</p> <p>【実施した効果】 木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しの効果を得ることなども期待出来る。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 北部子育て支援センターにおいて管理する</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 子育て世代が木と触れ合い交流出来る場としての活用はもちろんのこと、木や自然に親しむ場として森林環境教育の一躍を担う主要な場所として、積極的に学童時代の児童を含む地域住民なども活用することができる。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木材を使用した木製家具はぬくもりを感じると職員及び保護者等にも好評である。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	菰野町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	木の薫る安らぎを感じる憩いの場づくり事業
事業費	4,104,000 円(うち交付金	4,104,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札 97.94%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 菰野町競争入札参加資格者名簿(物品)において、登録があり、かつ三重県産木材を利用した机、イス等木製製品を学校または幼稚園、保育園等へ納入の実績があるもので選定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積り価格を参考にした。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用の見込み</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 町所有のため、該当なし</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 特になし</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 子ども・子育て会議などにおいて、県民税を活用している旨を周知した。</p> <p>【実施中の実績】 物品の購入であり「実施中」に該当する期間がない。</p> <p>【実施後の実績】 購入した物品においてはみえ森と緑の県民税を利用した旨を記載している。</p> <p>【今後の見込】 行事などにおいて、活用する際にPRしていく。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
特になし

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 菰野町

事業名 木の薫る安らぎを感じる憩いの場づくり事業

7. 写真



写真1
検収状況(木製間仕切り3連2段ロッカー)



写真2
検収状況(木製乳児用テーブル)



写真3
木製パーテーション



写真4
検収状況(木製カウンター)



写真5
検収状況(木製椅子)



写真6
焼印

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	緑と親しむ憩いの場づくりの植栽事業
事業費	64,482 円(うち交付金	64,482 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	平成29年度に開設予定の北部子育て拠点施設のグラウンドに植栽を行い、緑と親しみながら地域住民が交流する憩いの場とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 北部子育て拠点施設の公園部分に、近隣の田園風景と調和する植栽を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(北部子育て支援センター)、朝上地区</p> <p>【事業量】 常緑樹3本の植栽</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成29年12月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用を見込む</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 北部子育て支援拠点施設は平成29年度に開設予定であり、グラウンドに植栽を行うことで緑と親しみながら地域住民が交流する憩いの場とするため。</p> <p>【実施した効果】 身近に木のぬくもりや自然に触れる場や地域住民との交流する場、そして子育て世代にとってもほっとできる憩いの場ができることにより、さらに地域のつながりが深まると共に、こころの健康づくりの向上も期待される。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 北部子育て支援センターにおいて管理する</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 緑と親しむ憩いの場としての活用の他、非常時には防災機能を有した公園の役割を担い、地域にとって欠かせない場所として位置づけされ、活用できる。また、植栽後に施設利用者に向けて、木の文化を伝える等の木育を実施する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 今後、木が育っていけばグラウンドにおける憩いの場になると期待できるという意見あり。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	緑と親しむ憩いの場づくりの植栽事業
事業費	64,482 円(うち交付金	64,482 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 83%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 落札額が最低価格の業者であり、くじ引きにより確定</p> <p>【事業費の積算根拠】 工事設計単価からの積算による。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 北部子育て支援センターを利用する子育て世代の親子、子育てに関わる地域住民、ボランティアを含め年間9,600人の利用の見込み</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 町所有の為該当なし</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 特になし</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地域での事業説明の際に地元区長、区役員、子育て支援関係者などに県民税を活用している旨を周知した。</p> <p>【実施中の実績】 緑と親しむ憩いの場づくりの植栽事業に県民税を活用している旨をのぼり旗を用いて周知した。</p> <p>【実施後の実績】 行事などにおいて、活用する際にPRしていく。</p> <p>【今後の見込】 行事などにおいて、活用する際にPRしていく。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
特になし

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 菰野町

事業名 緑と親しむ憩いの場づくりの植栽事業

7. 写真



写真1
完成写真

写真2
完成写真

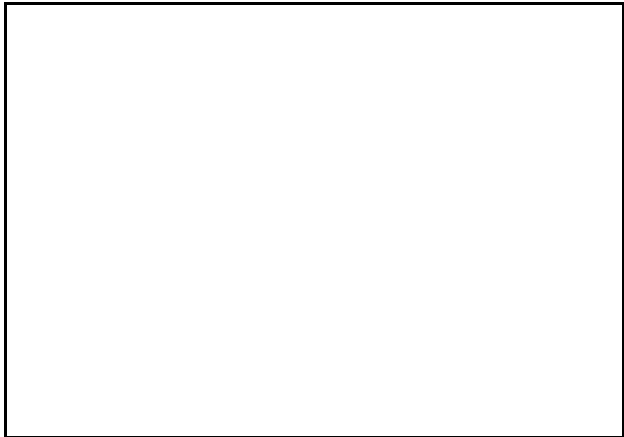
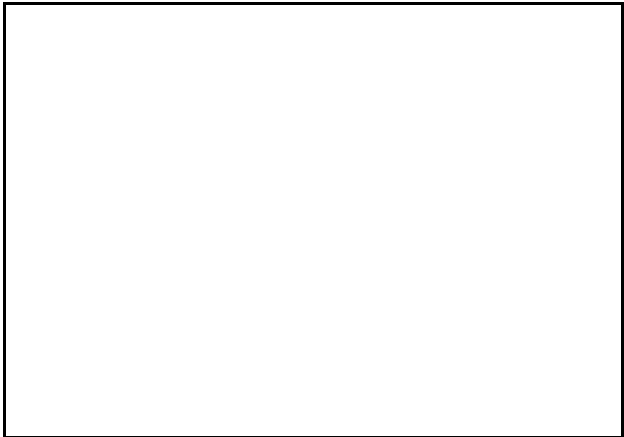


写真3

写真4

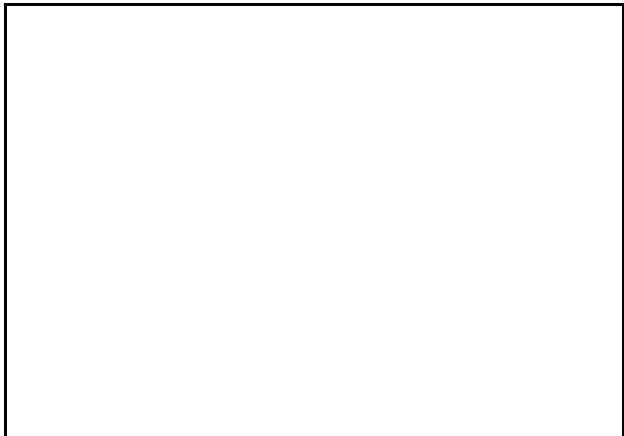
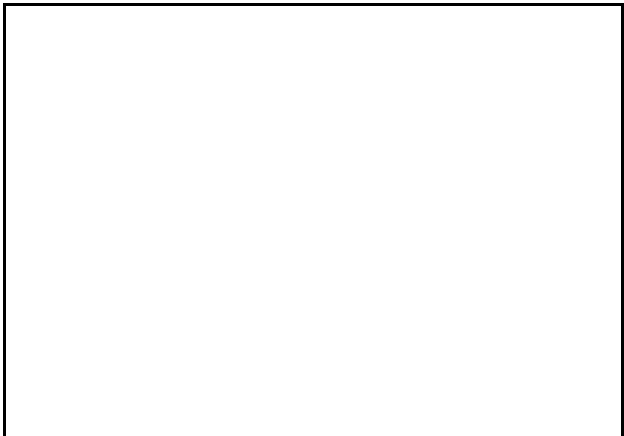


写真5

写真6

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	病虫害被害木伐採搬出事業
事業費	3,380,520 円(うち交付金	1,587,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	菰野町内において、病虫害による倒木のおそれがある樹木の伐採等により、住民の生命や財産を守ることを目的とする
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 国道、県道及び町道沿道から20m以内の病虫害による松枯れやナラ枯れ被害木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 森林を維持管理する団体及び所有者</p> <p>【補助率等】 50/100</p> <p>【箇所数】 三区共有土地管理会2箇所、菰野生産森林組合2箇所、須摩山財産組合、(株)三重カンツリークラブ、個人3名の合計7者9箇所</p> <p>【事業量】 病虫害被害木 58本</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平成30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 伐採地周辺の住民 2,000世帯 6,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 菰野町みえ森と緑の県民税補助金交付要綱による</p> <p>【実施した効果】 この事業で行った病虫害被害木の伐採・搬出・処理は、被害拡大の防止のためには必要不可欠であり、有効性の高い事業であったと考える</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 土地所有者において管理する</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 活用予定なし</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 町道通行車両及び人の安全が確保され、景観が良くなり、町道が明るくなったとの意見あり</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	病虫害被害木伐採搬出事業
事業費	3,380,520 円(うち交付金 1,587,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 当該事業は、周囲の状況に精通している住民等が行うもので、行政では把握困難な場所にも対応できるため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 50/100</p> <p>【契約相手方の選定理由】 同地区内にある業者等を選定</p> <p>【事業費の積算根拠】 昨年度の事業量を参考に算定。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 伐採地周辺の戸数から算定</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 適切な森林管理を引き続きお願いしている</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林であり、転用の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 各申請者へ取組の財源が「みえ森と緑の県民税」であることを説明した</p> <p>【実施中の実績】 病虫害被害木伐採搬出事業に県民税を活用している旨をのぼり旗を用いて周知した。</p> <p>【実施後の実績】 各申請者の代表から団体の構成員又は区民へ取組の財源が「みえ森と緑の県民税」であることを周知した</p> <p>【今後の見込】 引き続き、HP等でPRしていく。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	菰野町
-----	-----

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
菰野生産組合(施工前)

写真2
菰野生産組合(施工後)



写真3
須磨山財産区(施工前)

写真4
須磨山財産区(施工後)



写真5
須磨山財産区(施工前)

写真6
須磨山財産区(施工後)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本・特別	菰野富士ふるさとの山環境整備事業
事業費	29,582,280 円(うち交付金 26,296,727 円 うち基金活用 12,407,249 円)	

1. 事業の目的	身近でなじみのある菰野富士において、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 森林と緑の中を誰もが散策できるバリアフリー木道の遊歩道等を整備し、森林の中での癒し、健康づくりのための自然とのふれあいゾーンを創出する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(菰野富士)、菰野地区</p> <p>【事業量】 バリアフリー遊歩道L=33.650m設置</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月～平30年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 町民40,000人、小学生2,000人、保護者2,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 菰野富士は住民にとって身近でなじみのある場所であり、この場所にバリアフリー遊歩道を設置することで、誰もが森林と緑の親しむことのできる環境とするため。</p> <p>【実施した効果】 広く住民や来訪者が森林や緑の中を散策し、森の働きを身近に感じることが出来る機会を増やすことにより、森林への親しみを深め、森林の中での健康づくり等に活用できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 菰野町において管理する</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 町や各種団体が実施する森林ウォークなどの健康づくりや自然観察などの体験型プログラムを活用した利用に資することで森林環境教育に取り組む。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 今後引き続き工事を行う。見通しがよくなった。完成が楽しみとの意見があった。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本・特別	菰野富士ふるさとの山環境整備事業
事業費	29,582,280 円(うち交付金 26,296,727 円 うち基金活用 12,407,249 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 87.76%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 落札額が最低価格の業者であり、くじ引きにより確定</p> <p>【事業費の積算根拠】 工事設計単価からの積算による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 町民全体を対象とした。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 町管理のため手続等あれば確認する。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地元財産管理会への事業説明をする際に、県民税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 菰野富士ふるさとの山環境整備事業に県民税を活用している旨をのぼり旗を用いて周知した。</p> <p>【実施後の実績】 現在工事中であり引き続きのぼり旗を用いてPRする。</p> <p>【今後の見込】 完成したら、イベント、HP等でPRする。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 菰野町

事業名 菰野富士ふるさとの山環境整備事業

7. 写真



写真1
施工前



写真3

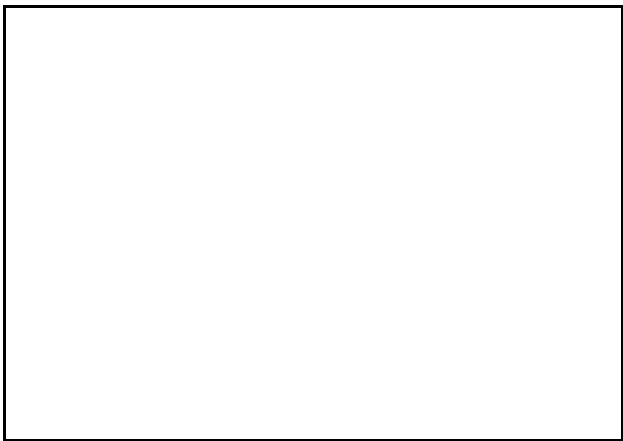


写真5



写真2
施工後

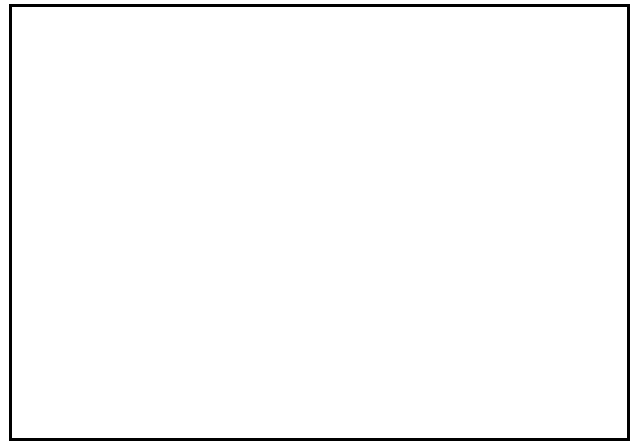


写真4

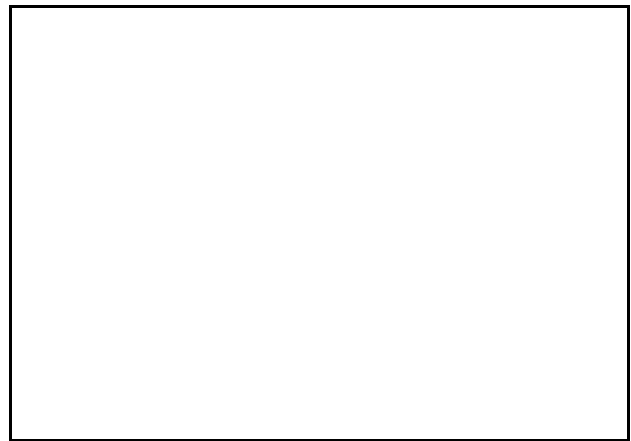


写真6

白 紙

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	森と緑とふれあう環境づくり事業(ふれあいパーク)
事業費	16,602,840 円(うち交付金	11,309,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
朝日町大字柿地区のふれあいパークは、隣接する朝日町教育文化施設の来館者や丘陵地の住民などが、親子で直接花や野菜の苗を植えてその後成長を見られる花と畑エリアと、植栽された樹木の中を散策する遊歩道や樹木の木陰で休憩できて芝生に触れられる森と緑エリアを一体的に整備する事業です。緑と親しむ環境を提供することで、身近な緑と県民との関係を深めます。
2. 事業実績概要
【事業内容】 森と緑エリアの芝生化及び樹木植栽
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 朝日町
【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。
【箇所数】 1箇所(ふれあいパーク)
【事業量】 芝生化面積 1,602㎡、高木 11本 など
【事業実施期間】 平成28年12月19日～平成29年5月15日
【受益者、参加者、利用者数等】 来館者約3000名 来館者に芝生の心地よさを感じてもらおう。
3. 有効性
【実施箇所の選定理由】 来館者に、緑に触れられる育成環境を提供し、自然環境を大切に思う心を育むため、町民が最も利用する公共施設(教育文化施設)付近を芝生化しました。
【実施した効果】 芝生や緑の心地よさの実感につながる。また、来館者(児童など)が築山を利用して遊ぶことで、運動量の増加や健全な身体の発育が期待される。
【実施箇所の今後の管理体制】 日々の管理は施設管理者が行う。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 芝の水やりに来館者たちにも参加してもらい、自分たちの植えた緑が育つ楽しさを感じる機会を設ける。
【実施内容に対する住民等の反応】 裸足で遊ぶ来館者なども見受けられ、緑の心地よさが実感されている。

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	森と緑とふれあう環境づくり事業(ふれあいパーク)
事業費	16,602,840 円(うち交付金	11,309,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率96%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき指名競争入札としており、契約にあたっては複数者の入札の結果、最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 公共積算</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来館者数約3000人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人と賃貸借契約を締結し、町で管理している。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町管理施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 来館者などに税を活用した事業として紹介した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを明記した。</p> <p>【実施後の実績】 あさひ園児童を対象にふれあいパークオープニングセレモニーを実施した。</p> <p>【今後の見込】 次年度以降も案内板により周知効果が継続する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	オープニングセレモニーを掲載した広報表紙(平成29年8月号)は別添のとおり。

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業(ふれあいパーク)

7. 写真



写真1 工事中看板(みえ森と緑の県民税市町交付金活用PR)



写真2 工事中看板(みえ森と緑の県民税市町交付金活用PR)



写真3 平成28・29年度 小さな築山と三重県産木材イス(森と緑エリア内)



写真4 平成28・29年度 三重県産木材案内板



広報あさひ

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名	
2	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(あさひ園)	
事業費	1,188,000 円(うち交付金	690,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	公共施設(幼保一体化施設 あさひ園)の園庭(運動場)を緑化することにより、環境において緑と人の環境を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 平成26年度に整備した芝生の維持管理</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(あさひ園)</p> <p>【事業量】 芝生面積 1,286㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月12日～平成30年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 園児約500名 芝の水やり参加者約150人(5歳児及び先生) 園児が家庭で芝生の心地よさを伝えることにより、保護者等への波及効果も期待できる。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 町の将来を担う園児たちに、緑に触れられる育成環境を提供し、自然環境を大切に思う心を育むため、園児たちが利用する公共施設を、平成26年度から同箇所を継続的に芝生化しております。</p> <p>【実施した効果】 裸足で芝生の上で遊ぶ園児もおり、芝生や緑の心地よさの実感につながる。また、園児たちの遊び方が幅広くなり、運動量の増加や健全な身体の発育が期待される。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 日々の管理は施設管理者が行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 芝の水やりに園児たちも参加してもらい、自分たちの植えた緑が育つ楽しさを感じる機会を設けた。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 裸足で遊ぶ園児も見受けられ、緑の心地よさが実感されている。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名	
2	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(あさひ園)	
事業費	1,188,000 円(うち交付金	690,000 円 うち基金活用	0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。尚、芝の苗植えの一部には園児たちも参加した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 芝生維持工事:随意契約(落札率94%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、130万円以下)に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては複数者の見積り合わせにより最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積書を徴収し積算した。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 園庭利用者数約500人(園児数) 芝の水やり参加者約150人(5歳児及び先生)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 保護者や先生などに、税を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを明記した。</p> <p>【実施後の実績】 あさひ園ホームページに記事を掲載した。</p> <p>【今後の見込】 次年度以降も看板により周知効果が継続する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
記事を掲載したあさひ園ホームページは別添のとおり。

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業(あさひ園)

7. 写真



写真1 工事中(みえ森と緑の県民税市町交付金活用PR)



写真2 緑に触れられる育成環境づくり授業

平成29年度みえ森と緑の県民税を利用して

更新日：2018年3月29日

あさひ園では「みえ森と緑の県民税」を利用して、園庭の芝生維持管理と木の遊具等を購入させていただきました。園児自らが芝生の維持を手伝っていただきました。また、遊具として三重県産の木材を使用したままごと冷蔵庫を購入させていただき、大切に使用させていただいております。

[あさひ園の様子 \(PDF文書/418KB\)](#)

あさひ園ホームページ



幼少期から子どもたちが木や緑に触れ合えるような木育を推進するため、園庭の芝生維持管理、木のおもちゃの購入をさせていただきました。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	森と緑を大切に思う人づくり事業(あさひ園)
事業費	60,480 円(うち交付金	50,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
幼い頃から木製のおもちゃ等で遊ぶことで、木の肌触りや温もりを感じてもらい、森林や緑を大切に思う心を育んでもらう。
2. 事業実績概要
【事業内容】 幼保一体化施設あさひ園に県産材を使用した木のおもちゃを設置する。
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 朝日町
【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。
【箇所数】 あさひ園
【事業量】 県産材をおもちゃ 1セット
【事業実施期間】 平成29年12月1日～平成30年3月30日
【受益者、参加者、利用者数等】 園児約500名 児童等が家庭で木のおもちゃの体験談を話すことにより、児童等の家族にも波及効果がある。
3. 有効性
【実施箇所の選定理由】 平成26年度からの継続的事业であり、要望により実施した。
【実施した効果】 木の持つ独特の温かさや香りなど、木の良さを実感できる学習環境の創造により、児童に安らぎや落ち着きを与え、快適な空間での学習につながる事が期待される。
【実施箇所の今後の管理体制】 日々の管理は施設管理者が行う。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 日常的な使用を通して木材とのふれあいが進み、森林や緑の大切さ、地球温暖化問題等への理解を深めるきっかけとなる。
【実施内容に対する住民等の反応】 昨年度導入したおもちゃ等を使用している園児の保護者から、「木の手触りがいい。」などの声をいただいております、導入するだけでなく、物を大切にすることも伝えていくこととしている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	森と緑を大切に思う人づくり事業(あさひ園)
事業費	60,480 円(うち交付金	50,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 施設管理者にて購入した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の備品購入であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第2号)に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては特注品により1者見積りにより契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積書を基に予定価格を設定し見積書を徴収した。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 園児約500名 児童等の家族にも波及効果がある。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 保護者及び先生などに税を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 備品の購入であり、「実施中」に該当する期間がない。</p> <p>【実施後の実績】 おもちゃにロゴマークを入れた。</p> <p>【今後の見込】 次年度以降も広報誌等により周知効果を継続する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑を大切に思う人づくり事業(あさひ園)

7. 写真



写真1

三重県産材のおもちゃ(冷蔵庫)



写真2

ロゴマーク入り

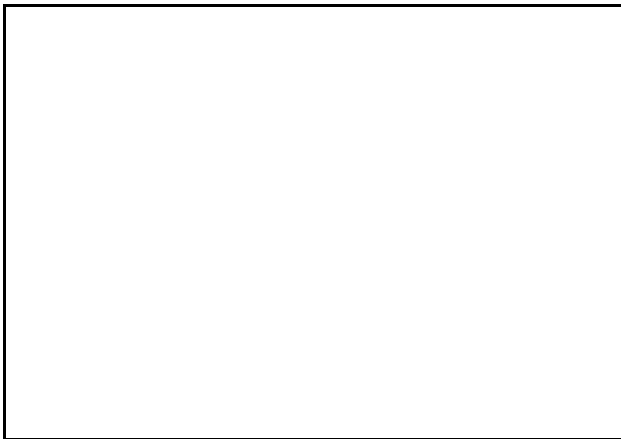


写真3

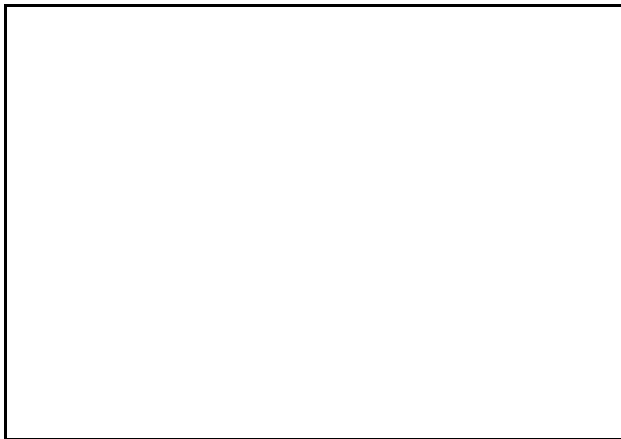


写真4



写真5



写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	朝日町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	木材利用促進事業(資料館)
事業費	1,101,600 円(うち交付金	740,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	登録有形文化財朝日町資料館(旧朝日町役場)の館内に県産材を活用した棚を設置することにより木材と日常的に親しむ空間を作り木の肌触りや温もりを感じてもらい、木材と人との関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 朝日町資料館(収納スペース)に県産材を使用した木の棚を設置する。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(資料館)</p> <p>【事業量】 県産材をつかった展示台 2台</p> <p>【事業実施期間】 平成29年6月13日～平成29年8月15日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 資料館年間利用者数(見込み)延べ 約1,600名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 多くの町民が鑑賞する場所に展示台を配備することで、木づかいが森林を支えることのPR効果が高いため。</p> <p>【実施した効果】 県産材を利用した木製棚を配備することで多くの町民が木材利用の意義に気づききっかけとなる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 町有施設であり、町で維持管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木材利用の意義や森林の大切さを町民に啓発するため、資料館入り口を利用した森林関係図書等の閲覧コーナーを検討している。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 森林関係図書等の閲覧コーナーを実施した際に意見を伺うなど実施後の反応把握に努める。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	朝日町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	木材利用促進事業(資料館)
事業費	1,101,600 円(うち交付金 740,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 町による業務請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率98%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき指名競争入札としており、契約にあたっては複数者の入札の結果、最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積書を基に予定価格を設定した。</p>
5. 公益性(波及度)
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 資料館の年間利用者数を受付簿から推定し、延べ約1,600人と見込んでいる。</p> <p>【管理責任者(森林所有者)への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 資料館利用者に、税を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 備品の購入であり、「実施中」に該当する期間がない。</p> <p>【実施後の実績】 朝日町ホームページに記事を掲載した。</p> <p>【今後の見込】 資料館入口で森林関係図書等の閲覧コーナーを実施した際に、税活用の周知を検討している。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項
記事を掲載した資料館ホームページは別添のとおり。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	朝日町
-----	-----

事業名	木材利用促進事業(資料館)
-----	---------------

7. 写真



写真1
三重県産材の展示棚



写真2
ロゴマーク入り



写真3
みえ森と緑県民税PR紙設置状況(入り口付近)



写真4
みえ森と緑県民税PR紙設置状況(入り口付近)

「みえ森と緑の県民税」を活用して資料館に展示台を設置しました。

「みえ森と緑の県民税」を活用して、朝日町資料館に三重県産材を用いた展示台を導入しました。木の香りや肌触りを感じていただき、三重の森林や緑に想いを馳せていただければと思います。併せて森林に関する書籍コーナーも設置していますのでご利用下さい。



1階展示室の様子



2階展示室の様子



見学の様子



書籍コーナー

資料館ホームページ

白 紙

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	川越町図書室木質備品整備事業
事業費	1,501,200 円(うち交付金	1,501,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>図書室内で利用する閲覧テーブル、イス、会議テーブル、子ども用イスや書架等を県産材の木製製品を利用することで温かみや、木の肌触りと香りを感じるリラックスした、空間づくりを目的とする。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図り備品等の購入整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越町図書室)</p> <p>【事業量】 木製子供用椅子(8脚)、木製角スツール(5台)、木製閲覧テーブル(1台)、木製閲覧イス(6脚)、木製会議テーブル(2台)、木製テーブル(2台)、木製書架(2台)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 図書室利用者、16,491人/年(平成27年度貸出人数実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 図書室内で使用する閲覧テーブル、イス、会議テーブル、子ども用イスや書架等に県産材の木製製品を利用することで温かみや、木の肌触りと香りを感じるリラックスできる空間作りをするため選定した。</p> <p>【実施した効果】 樹木からの成分によるリラックス効果、木の香り、肌触りの爽やかさなど木の特性によりゆったりとした環境で読書ができる良い空間を育み、健やかな環境を形成する。本棚、テーブル、椅子などは利用者が触れるものであり、暖かな空間を感じてもらうことができる。地球温暖化対策など、木材利用の意義を知る機会が増えた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理、維持します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 樹木からの成分によるリラックス効果、木の香り、肌触り爽やかな空間など木の特性によりゆったりとした環境で読書ができ、本棚、テーブル、椅子に利用者が触れることで、暖かな空間を感じてもらうことができた。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	川越町図書室木質備品整備事業
事業費	1,501,200 円(うち交付金	1,501,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による物件、その他契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 川越町入札参加資格者名簿に登録があり、かつ業者区分の取扱種目が家具に属している業者の中から、過去に当町が発注した同種の業務において、入札参加実績のある業者を指名した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴収し、最低者の金額を予定価格とした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 図書室利用者、16,491人/年(平成27年度貸出人数実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 着手前に図書室利用者に対し、税を活用した木質備品整備事業の趣旨を周知する</p> <p>【実施中の実績】 工事中ロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し周知を図る</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所にロゴマークを入れた税活用の看板を設置し、図書室利用者等へ周知をする</p> <p>【今後の見込】 —</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他の特記事項	樹木からの成分によるリラックス効果、木の香り、肌触りの爽やかさなど木の特性によりゆったりとした環境で読書ができる良い空間を育み、健やかな環境を形成する。本棚、テーブル、椅子などは利用者が触れるものであり、暖かな空間を感じてもらうことができる。地球温暖化対策など、木材利用の意義を知る機会が増えた。

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 川越町

事業名 川越町図書室木質備品整備事業

7. 写真



写真1
木製閲覧テーブル設置状況



写真2
木製子供用椅子設置状況



写真3
木製角スツール設置状況



写真4
木製書架設置状況



写真5
木製テーブル設置状況

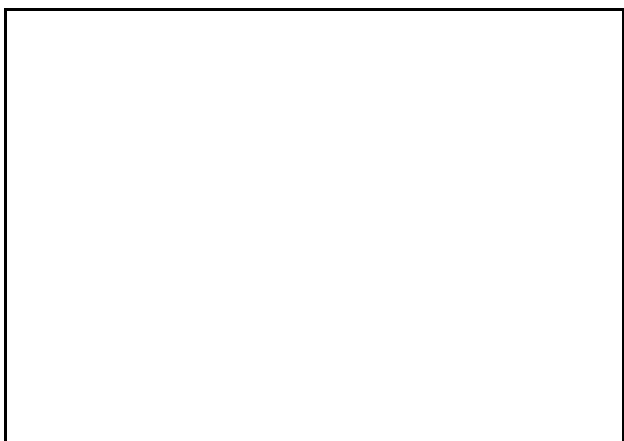


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本・特別	川越町総合体育館1階ロビー木材利用促進事業
事業費	2,678,400 円(うち交付金 2,678,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	<p>体育施設を利用する利用者に対し運動で疲れた体を休め、木製品に触れ香りでリラックスできる空間をつくり施設利用者の健康増進を促進することを目的とする。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図り備品等の購入整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越町総合体育館)</p> <p>【事業量】 木製ロビーチェア3人掛け(10台)、木製ロビーチェア用サイドテーブル(9台)、木製ロビーベンチ背無しW180(2台)、木製ロビーベンチ背無しW130(2台)、木製パンフレット棚(2台)、木製壁面パネル(1台)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 施設利用者 9,431人/年間(個人:6,721人、団体:2,710人)(平成27年度実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 運動、スポーツ後、樹木からの成分によるリラックス効果、木の香り、肌触り爽やかな休憩空間を設けることで木の特性により疲れた体の癒し効果を感じてもらい、木材利用の意義を知る機会を作る。</p> <p>【実施した効果】 運動、スポーツ後、樹木からの成分によるリラックス効果、木の特性により疲れた体の癒し効果を感じてもらい、木製のイスやテーブルなどは利用者が触れることで、木の香り、肌触り爽やかで暖かさを感じる事ができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理、維持します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 運動、スポーツ後、樹木からの成分によるリラックス効果、木の香り、肌触り爽やかな休憩空間を設けることで木の特性により疲れた体の癒し効果を感じてもらい、木製のイスやテーブルなどは利用者が触れることにより、暖かな空間を感じてもらい、木材利用の意義を知る機会が増えた。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本・特別	川越町総合体育館1階ロビー木材利用促進事業
事業費	2,678,400 円(うち交付金 2,678,000 円 うち基金活用 0 円)	

<p>4. 効率性</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による物件、その他契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 川越町入札参加資格者名簿に登録があり、かつ業者区分の取扱種目が家具に属している業者の中から、過去に当町が発注した同種の業務において、入札参加実績のある業者を指名した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴収し、最低者の金額を予定価格とした。</p>
<p>5. 公益性（波及度）</p> <p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 施設利用者 9,431人/年間(個人:6,721人、団体:2,710人)(平成27年度実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
<p>6. 周知実績と今後の周知</p> <p>【実施前の実績】 着手前に体育館を利用者に対し、税を活用した木材利用促進事業の趣旨を周知する</p> <p>【実施中の実績】 工事中ロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し周知を図る</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所にロゴマークを入れた税活用の看板を設置し、体育館を利用する利用者等へ周知をする</p> <p>【今後の見込】 -</p>
<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>8. その他の特記事項</p> <p>運動、スポーツ後、樹木からの成分によるリラックス効果、木の特性により疲れた体の癒し効果を感じてもらい、木製のイスやテーブルなどは利用者が触れることで、木の香り、肌触り爽やかで暖かさを感じることができた。</p>

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 川越町

事業名 川越町総合体育館1階ロビー木材利用促進事業

7. 写真



写真1 木製ロビーチェア・サイドテーブル設置状況

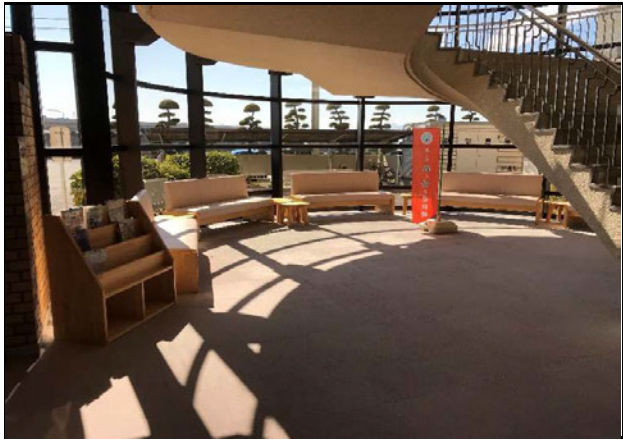


写真2 木製ロビーチェア・サイドテーブル・パンフレット棚設置状況



写真3 木製ロビーベンチ・壁面パネル棚設置状況

三重県産木材のテーブル・ベンチ等を設置

みえ森と緑の県民税市町交付金の財源により、図書室・診療所待合スペース・総合体育館1階ロビーに県産材を使った木製テーブル・ベンチなどを設置しました。

総合体育館ロビーに設置されたベンチ

写真4 広報かわごえ 税の活用周知状況

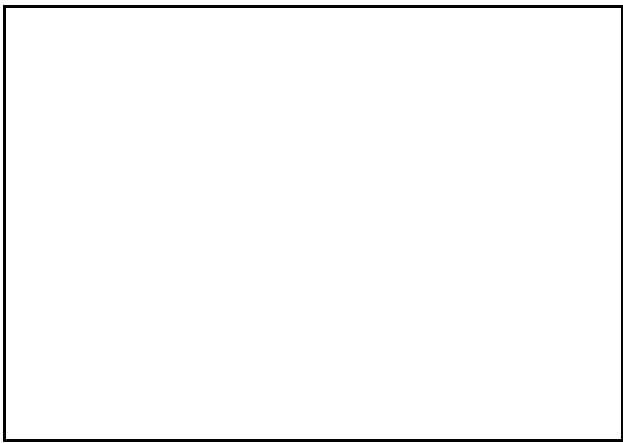


写真5

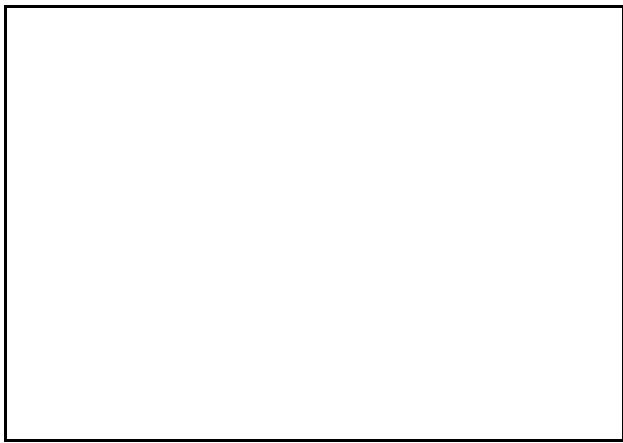


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本・特別	川越診療所待合スペース木材利用促進事業
事業費	3,834,000 円(うち交付金	3,834,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	診療所を利用する患者等が待合などに使用するイス等を木製にすることにより利用者が木に触れることで心安らぐ場としての空間づくりを目的とする。
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図り備品等の購入をして促進を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越診療所)</p> <p>【事業量】 木製ロビーベンチ(3人掛け肘付)12台、木製ロビーベンチ(2人掛け肘無)6台、木製ベンチ(W150)6台、木製カウンター(W1400)1台、木製カウンター(W900)2台、木製丸スツール(スタッキング可能)4脚、木製ロビーベンチ(4人掛け背無し)2台、木製診療所看板 1枚、絵本棚 1台</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 来院数 16,070人/年(平成27年度実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 診療所を利用する患者等が待合する際に木製品により温かみや木の肌触りと香りを感じ、診察を待つ間リラックス効果をつくり、本年度同時に待合スペースの木質化事業によりホールの一部にキッズスペースを設けることにより、より一層の効果を得ることが期待できる事もあり選定した。</p> <p>【実施した効果】 患者等が待合する際に県産材を利用した木製品(イス等)を利用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じ、診察を待つ間リラックス効果が期待できる。また本年度同時に待合スペースの木質化事業によりホールの一部にキッズスペースを設けることにより、より一層の効果を得ることが期待できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理、維持します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 県産材を利用した木製品(イス等)を利用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じ、リラックスできる。また本年度同時に待合スペースの木質化事業によりホールの一部にキッズスペースを設けることにより、より一層の効果を得ることが期待できる。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本・特別	川越診療所待合スペース木材利用促進事業
事業費	3,834,000 円(うち交付金	3,834,000 円 うち基金活用 0 円)

<p>4. 効率性</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による物件、その他契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 川越町入札参加資格者名簿に登録があり、かつ業者区分の取扱種目が家具に属している業者の中から、過去に当町が発注した同種の業務において、入札参加実績のある業者を指名した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴収し、最低者の金額を予定価格とした。</p>
<p>5. 公益性（波及度）</p> <p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来院数 16,070人/年(平成27年度実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
<p>6. 周知実績と今後の周知</p> <p>【実施前の実績】 着手前に診療所を利用する患者等に対し、税を活用した木材利用促進事業の趣旨を周知する</p> <p>【実施中の実績】 工事中ロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し周知を図る</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所にロゴマークを入れた税活用の看板を設置し、診療所を利用する患者等へ周知をする</p> <p>【今後の見込】 —</p>
<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>8. その他の特記事項</p> <p>患者等が待合する際に県産材を利用した木製品（イス等）を利用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じ、診察を待つ間リラックス効果が期待できる。また本年度同時に待合スペースの木質化事業によりホールの一部にキッズスペースを設けることにより一層の効果を得ることが期待できる。</p>

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 川越町

事業名 川越診療所待合スペース木材利用促進事業

7. 写真

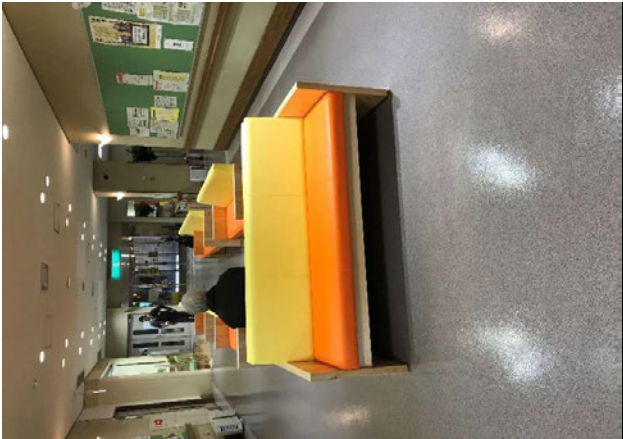


写真1
木製ロビーベンチ設置状況



写真2
木製ロビーベンチ設置状況



写真3
木製看板設置状況



写真4

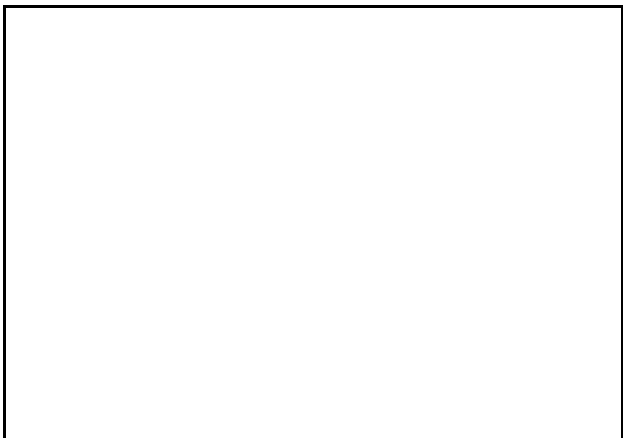


写真5



写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本・特別	川越診療所待合スペース木質化事業
事業費	1,289,520 円(うち交付金	1,289,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
診療所に訪れた患者等が利用する待合ホールの一部をキッズスペースとして整備し、子どもたちが木に触れ安らぐ場としての空間づくりを目的とする。なお、キッズスペースと称しているが、子どもだけでなく高齢者を含めた幅広い年代の方に利用してもらおう目的で整備する。
2. 事業計画概要
<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図り待合ホールの一部を木質化促進する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越診療所)</p> <p>【事業量】 待合スペース 46.2㎡ 県産材を利用した複合フローリング張り(直貼り工法) 15.5㎡、木製腰壁 6.8㎡、木製格子 4.2㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 来院数 16,070人/年(平成27年度実績)</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 診療所を訪れた患者等が利用する待合ホールの一部を木に触れ安らぐ場としての空間に整備し、子どもから高齢者を含めた幅広い年代の方に利用してもらおうことが目的で選定した。</p> <p>【実施した効果】 診療所を利用する患者等が待合する際に木製品を利用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じ、診察を待つ間リラックスできる空間をつくる。本年度同時に待合スペース木材利用促進事業によりホール全体のイス等を木製品に整備することにより、より一層の効果を期待できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理、維持します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 待合ホールに県産材の木製品を利用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じ、診察を待つ間リラックスできる。また、本年度同時に待合スペース木材利用促進事業によりホール全体のイス等を木製品に整備することにより、より一層の効果を期待できる。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本・特別	川越診療所待合スペース木質化事業
事業費	1,289,520 円(うち交付金	1,289,000 円 うち基金活用 0 円)

<p>4. 効率性</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。</p>
<p>5. 公益性（波及度）</p> <p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来院数 16,070人/年(平成27年度実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
<p>6. 周知実績と今後の周知</p> <p>【実施前の実績】 着手前に診療所を利用する患者等に対し、税を活用した木質化事業の趣旨を周知する</p> <p>【実施中の実績】 工事中ロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し周知を図る</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所にロゴマークを入れた税活用の看板を設置し、利用する患者等へ周知をする</p> <p>【今後の見込】 —</p>
<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>8. その他の特記事項</p> <p>森林がない川越町において、診療所待合スペースの木質化事業を実施することで、子どもから高齢者を含めた患者等が、木に触れる環境の整備をするための継続実施及びより良い取り組みとなるように工夫を重ねている。</p>

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 川越町

事業名 川越診療所待合スペース木質化事業

7. 写真



写真1
複合フローリング張り設置状況

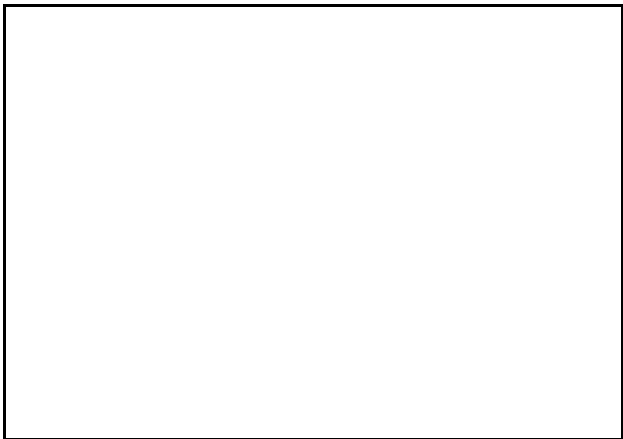


写真3



写真5



写真2
複合フローリング張り設置状況

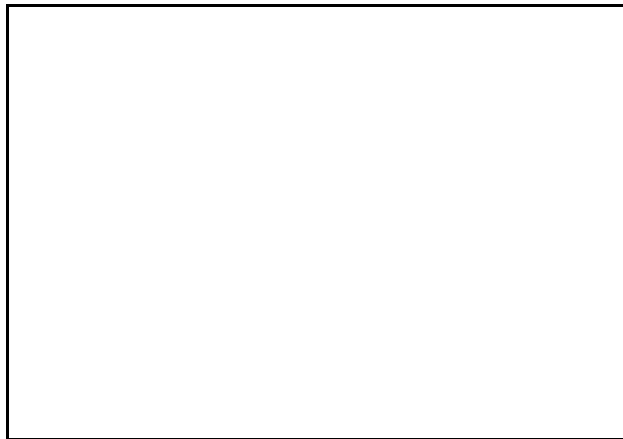


写真4



写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	川越町
番号	区分	事業名	
5	基本・特別	川越町おひさま児童館広場芝生化事業	
事業費	1,656,288 円(うち交付金	1,656,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	児童館の広場の一部を芝生化し、子どもたちが芝生に触れることで自然環境の緑にふれあう空間を提供する。
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 児童館の広場の一部を芝生化する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越町おひさま児童館)</p> <p>【事業量】 芝生化面積:206.7㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成29年5月～平成30年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 児童館利用者数 24,224名/年(平成27年度実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 次世代を担う学童や保護者に対し、緑の空間を与えることにより自然にふれあう機会や知識を深めるために平成26年度から継続的に実施しており、おひさま児童館が4箇所目となる。</p> <p>【実施した効果】 学童に緑の空間を与えることにより自然にふれる機会が増し、子どもたちの外遊びの促進と、遊びの多様化、緑の自然環境を大切に思う気持ちを育みます。また、「ケガの減少」「砂塵被害の抑制」「夏の体感温度の低下」が期待できるほか、「精神的な落ち着き」など、これまでと異なる感性を育てることにつながります。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理、維持します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 遊具等の周辺への芝生化の実施により、遊具を利用する学童たちが緑に触れる機会が増え、「ケガ等の危険性減少に繋がる」と保護者からの声をいただいています。</p>

平成 29 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	川越町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本・特別	川越町おひさま児童館広場芝生化事業
事業費	1,656,288 円(うち交付金	1,656,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 児童館利用者数 24,224名/年(平成27年度実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 着手前に児童館利用者に対し、税を活用した芝生化事業の趣旨を周知する</p> <p>【実施中の実績】 工事中ロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し周知を図る</p> <p>【実施後の実績】 実施箇所にロゴマークを入れた税活用の看板を設置し、利用する保護者等へ周知をする</p> <p>【今後の見込】 —</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他の特記事項	森林がない川越町において、幼い頃から緑に触れて遊ぶ環境を整備するため、平成26年度から継続して児童館等の芝生化を進めており、当該事業が4箇所目となる。継続実施する中で、より良い取り組みとなるように工夫を重ねている。

対策区分

5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名

川越町

事業名

川越町おひさま児童館広場芝生化事業

7. 写真



写真1

園庭の形状に合わせ、その一部を芝生化。

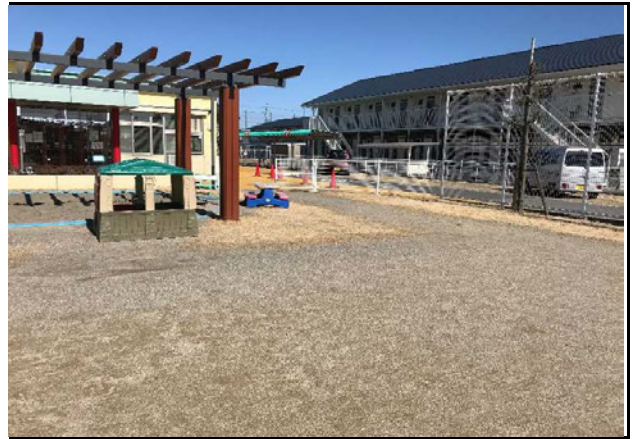


写真2

園庭の形状に合わせ、その一部を芝生化。



写真3

園庭の形状に合わせ、その一部を芝生化。



写真4

園庭の形状に合わせ、その一部を芝生化。

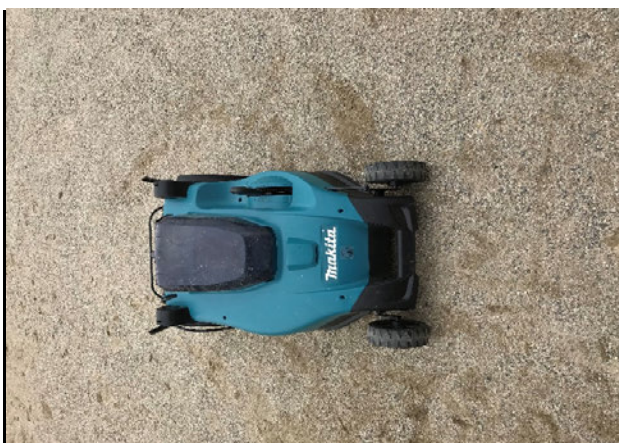


写真5

園庭の芝管理を行うための芝刈機、草刈機の購入を行った。



写真6

ロゴマーク(芝刈機)

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 川越町

事業名 川越町おひさま児童館広場芝生化事業

7. 写真

**おひさま児童館
広場の一部を芝生化**

緑とふれあえる環境づくりを目指して園庭・広場の芝生化を進めています。平成26年度より「みえ森と緑の県民税」を財源とした交付金を活用し、事業がスタート。北部保育所、つばめ児童館、南部保育所に続き、今年度はおひさま児童館の広場の一部を芝生化しました。

8月4日(金)に行われた芝生の苗植えには、児童館の利用者や南学童保育所の子供たち約50名が参加し、芝の苗をひとつずついねいに植え付けていきました。



おひさま児童館ブログ

木のおもちゃで遊んで 作って 学ぼう！

7月31日 夏休み特別企画 木のおもちゃで遊んで 作って 学ぼう！が行われました。

まずは学ぼう！みえ森と緑の県民税の活動で森と木の事を学びました。



クイズ 三重県の木はなんですか？

①ヒノキ ②クロガネモチ ③神宮杉

写真7 広報かわごえ 子どもたちが参加した芝生化を紹介した。

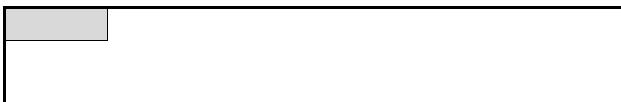
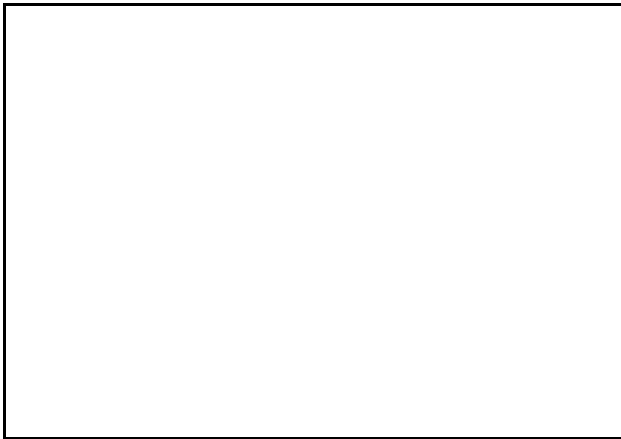
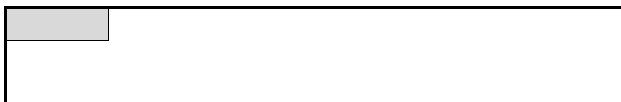
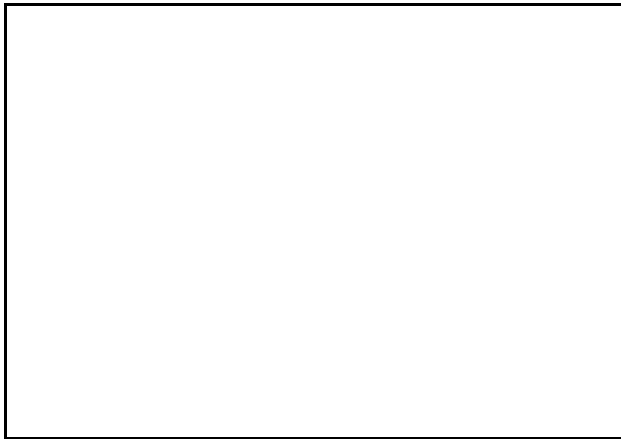
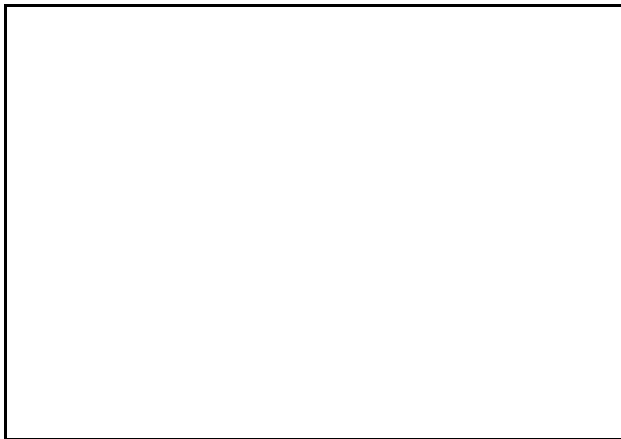


写真8 (参考)おひさま児童館では森と木の事を学ぶイベントも開催した。



津農林水産事務所管内

白 紙

白 紙

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
1	基本	津市森林環境教育事業
事業費	493,400 円(うち交付金	493,400 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>夏休み森と緑の親子塾:木のぬくもりや、木の良さを知ってもらうため、市内在住・在学の小学生と保護者を対象に「夏休み森と緑の親子塾」を開催し、森林や木材について学び、ふれあう場を提供し体験活動型の木育を推進する。</p> <p>まるごと林業体験:普段なかなか身近に感じることでできない森林のはたらきや林業という仕事を、現場での体験を通して正しく理解してもらい、自らが進んで森林環境教育に取り組める人材育成を推進する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 夏休み森と緑の親子塾:小学生とその保護者を対象に木工細工体験を行った。「森林のはたらき」についてパネル展示と講習を行った。木とふれあう林業体験として小学生に丸太切り・丸太皮むきの体験を行った。 まるごと林業体験:間伐現場見学で間伐事業の説明や高性能林業機械の見学、伐採体験等を行った。また森林資源の循環等の説明を受けた後、間伐材を利用した木工細工体験を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 津市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 夏休み森と緑の親子塾:1箇所 まるごと林業体験:1箇所</p> <p>【事業量】 夏休み森と緑の親子塾:1回 まるごと林業体験:1回</p> <p>【事業実施期間】 夏休み森と緑の親子塾:平成29年7月1日～平成29年8月6日(募集期間含む) まるごと林業体験:平成29年11月1日～平成29年11月25日(募集期間含む)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 夏休み森と緑の親子塾:親子18組54名 まるごと林業体験:20名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 夏休み森と緑の親子塾:森林や林業をより身近に感じてもらうながら、森林環境教育を促進させる体験活動型のイベントの開催場所としては、林業が盛んな美杉地域が適切な場所であり、中でも道の駅周辺は利便性に優れている。 まるごと林業体験:実際に林業の作業が行われている地域の中で、今回の事業内容を考慮し、集合場所や木工体験が可能な施設や林業現場までの移動時間等を勘案し、効率的に事業が実施できる芸濃町雲林院地区を選定。</p> <p>【実施した効果】 夏休み森と緑の親子塾:木工細工等により、直接木に触れることで、木のぬくもりと物を作る楽しさを認識していただき、森林のはたらきについて学ぶことで親子で森林に対する理解を深めることができた。森林環境教育として、森を育む人としてのきっかけづくりの場を提供することができた。 まるごと林業体験:実際に観ることや体験することで参加者が林業に対する理解を深め、循環可能な資源である木材を利用する意義を知るとともに、森林の持つ公益的機能の理解が深まり森を育む人づくりに寄与することができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 体験学習の開催であり、該当しない。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 体験学習の開催であり該当しない。※平成26年度から毎年実施しており、今後も継続して開催したい。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 夏休み森と緑の親子塾:木工細工では物を作る楽しさと木への関心を高めることができた。丸太切りや木の皮むき体験では生の木に触れ、作業の大変さやうまくできたときの面白さを驚きや興味を持って体験してもらうことができた。また【森林のはたらき】についてのパネル展示や講習で森林の多面的機能について関心を持っていただくことができた。 まるごと林業体験:機械化された現代林業の作業の様子や目前での伐採作業に大いに興味を持ってもらうことができた。間伐材を用いた木工細工作りを体験し、森林の公益的機能への理解と関心を持っていただくことができた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
1	基本	津市森林環境教育事業
事業費	493,400 円(うち交付金	493,400 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。 事業は委託により実施。</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林や林業をより身近に感じてもらいながら、森林環境教育を促進させるには、木工細工や林業体験などの体験活動型のイベントをすることが効果的なため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 夏休み森と緑の親子塾：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約 落札率 94.73% まるごと林業体験：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約 落札率 99.76%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 夏休み森と緑の親子塾：地域の実情に精通しており、森林・林業に関する経験や知識が豊富で、木材加工にも技術的な指導などにも優れている会員が多く所属する団体であるため。 まるごと林業体験：津市競争入札参加資格者名簿において森林に関する希望を出している者のうち、認定林業事業体である2者</p> <p>【事業費の積算根拠】 夏休み森と緑の親子塾：木工細工及び森林教室に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。 まるごと林業体験：林業機械操作及び木工細工に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 参加申し込みが必要なイベントであり参加者の把握が可能である。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 体験学習の開催であり、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 体験学習の開催であり、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。</p> <p>【実施中の実績】 開催中は会場の壁面に横断幕を掲げるとともに幟等を設置し、県民税の事業として開催されていることを周知。</p> <p>【実施後の実績】 当日の開催状況をホームページに掲載している。</p> <p>【今後の見込】 今後に関しても継続的に森林教室を継続して開催することで、毎年のイベントとして市民の方々への定着を図るとともに、いろいろな林業に関する体験ができるよう事業内容を考案し実施したい。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	津市
-----	----

事業名	津市森林環境教育事業
-----	------------

7. 写真



写真1
夏休み森と緑の親子塾:会場に横断幕・幟等を掲示して県民税の事業であることを周知した



写真2
夏休み森と緑の親子塾:木工教室



写真3
夏休み森と緑の親子塾:皮むき体験



写真4
夏休み森と緑の親子塾:森林のはたらきなどを啓発するため、森林環境教育パネルを展示した



写真5
まるごと林業体験:間伐現場見学(間伐事業の説明)



写真6
まるごと林業体験:間伐現場見学(林業機械見学)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
2	基本	美里水源の森整備事業
事業費	32,018,938 円(うち交付金 32,018,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	美里水源の森の水源涵養林等を活かして、子どもたちが自然を体験できる場を造成し、自然や環境保全を学べる場として活用し、この森を核として緑と水と文化に抱かれた心育む美しい里づくりを進める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 美里水源の森に里山の自然を再生し、散策道などを整備し、自然に親しむ市民の憩いの場、青少年の自然・環境体験学習の場として積極的に活用していきます。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 長野川流域環境保全協議会(美里総合支所 地域振興課)</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所 三重県津市美里町南長野字栃谷地内 8.8ha</p> <p>【事業量】 散策道(舗装687.13m、水路工80.5m)、駐車場整備(舗装1296㎡、水路工109m、擁壁工49m)、体験学習等の開催(2回)</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月1日～平成30年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 企業の森の参加者と地元住民の植樹を通じての交流会156名 体験学習 36名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 美里水源の森は、津市総合計画後期基本計画に位置付けられており、当該森林を水源かん養機能を保全しつつ住民に安らぎを与える憩いの場・交流の場、そして子育ての場として整備に向けた取組を進めるものです。</p> <p>【実施した効果】 H29年度において、散策道の一部を舗装(水路工を含む)整備、駐車場(舗装、水路、擁壁)を整備し、企業の森や交流会、体験学習を実施する上で必要な施設・環境が整いつつある。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 長野流域環境保全協議会(美里総合支所 地域振興課)が管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 平成29年度に小中学校統合された義務教育学校「みさとの丘学園」の学習活動への活用</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 平成29年度に小中学校統合された義務教育学校「みさとの丘学園」の学習活動への活用等がされるため、早期完成が望まれている。 また、地域の誇れる財産として整備していることに、地域住民から理解を得ている。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	区分	事業名
2	基本	美里水源の森整備事業
事業費	32,018,938 円(うち交付金 32,018,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 負担金事業として長野川流域環境保全協議会が実施 同協議会が散策道(水路工)、駐車場 請負契約にて実施</p> <p>【実施方法の選定理由】 整備工事であるため、施工業者への請負とする。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 整備工事1(駐車場など)・・・指名競争入札 落札率 82% 整備工事2(散策道の舗装など)・・・随意契約</p> <p>【契約相手方の選定理由】 整備工事1(駐車場など)・・・協議会が津市競争入札参考に競争入札により、契約した。 整備工事2(散策道の舗装など)・・・協議会が津市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、50万円以下)を参考に複数業者の見積り合わせによる最低価格者と随意契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 整備工事1.2・・・津市の公共事業(道路工事)単価で積算</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 長野川流域環境保全協議会が主催者であることから、事前打ち合わせを行い当日の参加者を把握。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 津市(水道局管轄)であるため、不要</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 行政財産であるため転用、目的外使用は、許可しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 工事・・・地域だより:美里通信(市広報同時配布物)にて周知済</p> <p>【実施中の実績】 工事・・・工事個所内に掲示 イベント・・・地元自治会長から地域住民に周知、参加募集</p> <p>【実施後の実績】 林業体験に36名の参加 里山交流体験に地元から36名参加 地域だより:美里通信(市広報同時配布物)にて、29年度の実績を掲載</p> <p>【今後の見込】 整備工事完了後に里山体験学習等の実施を市内小中学校へPRおよび要望する。 また、長野流域環境保全協議会を基にしてNPO法人を立ち上げ、森の学校等のイベントを企画し、参加者を募集する。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 津市

事業名 美里水源の森整備事業

7. 写真



写真1
工事前 散策道



写真2
完成 散策道



写真3
工事前 駐車場



写真4
完成 駐車場



写真5
11/2 林業体験学習



写真6
11/25 里山体験(苗床整備)

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
3	基本	木材利用促進事業
事業費	2,100,000 円(うち交付金 2,100,000 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的
住宅や公共施設の木造・木質化を図り、それをきっかけにして、木造・木質化による癒し効果の普及啓発を図る。地域産材又は県産材を利用することで、津市林業への理解を深める。
2. 事業実績概要
<p>【事業内容】 木造住宅等の主要部材に地域産材又は県産材を一定以上利用した公共的施設や個人住宅を対象に補助金を交付。昨年度に引き続き、本年度も申請者の同意を得たうえで、住宅展示場として市民の皆さんへ公開を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 地域産材又は県産材で木造住宅を建てようとする市民</p> <p>【補助率等】 定額 公共的施設 50万円/棟 個人住宅 30万円/棟</p> <p>【箇所数】 個人住宅 7棟(河芸町西千里、丸之内養正町、長岡町、観音寺町、榊原町、久居元町、本町)</p> <p>【事業量】 個人住宅 7棟 木材使用量 132.50m³ 内、地域産材使用量 56.8m³、県産材使用量 45.00m³</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月1日から平成30年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 住宅施工者 7者 住宅展示会 平成29年12月16日～平成29年12月17日 参加者20名 ※交付申請時期が年度後半に集中したため、年度内に完成し展示会を行うことができなかったが、次年度以降も継続して展示会等で事業のPR活動を行う。</p>
3. 有効性
<p>【実施箇所の選定理由】 森林を守るためには、多くの市民の皆さんが木材を使う必要がある。近年、若い世帯を中心に、体に優しい自然素材を選択する傾向があることから、構造材や床材・壁材を中心に木材を使用を検討する事例が見られている。当該事業は、個人住宅ならば12m³/棟以上、公共的施設ならば20m³/棟以上木材を使用する施主を対象に、補助事業として実施しており、この事業を進めることで一層の地域材利用拡大を図ることができると考えている。</p> <p>【実施した効果】 木材使用量132.50m³(地域産材使用量 56.80m³、県産材使用量 45.00m³)を使用することができた。住宅展示会で県民税事業であることをチラシや幟で来場者にPRし、啓発効果を達成したと考えている。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 完成した木造住宅は、施主が管理することになるが、今後30年から50年近く、二酸化炭素の貯蔵庫として機能することが期待できる。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 平成26年度から実施しており(平成26年度4棟、平成27年度2棟、平成28年度8棟、平成29年度7棟)啓発用のパンフレットを作成したい。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木に触れることや木材から漂う薫りによって感じる、ぬくもりや安心感といった木造住宅の魅力と、最新の技術を導入することで高い断熱性や気密性を保持できる等、木造住宅でも他工法の住宅と変わらない点がPRができた。同時に森林を守るために木材を使う必要性は、十分理解していただいたと感じた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
3	基本	木材利用促進事業
事業費	2,100,000 円(うち交付金 2,100,000 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業として、市広報や市ホームページ上で、事業要領や申請書様式を提示して実施。補助金を希望する者が直接申請する。</p> <p>【実施方法の選定理由】 市民への啓発が重要と考えており、施工業者ではなく、市民(施主)を補助対象者とした。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 定額補助 公共的施設 50万円/棟 個人住宅 30万円/棟</p> <p>【契約相手方の選定理由】 公募につき、該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 非公共事業の費用対効果計算を行い、炭素固定効果・炭素排出抑制効果を試算した。個人住宅の場合は、25年の固定を前提に計算したところ妥当な投資事業費は32万円となった。従い、当該事業による助成額を30万円/棟とした。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者は、補助金申請書を提出 住宅展示会参加者は、受付で氏名・住所を記入</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 住宅居住者が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 住宅所有者が適切に管理を行う。（協定等は結んでいない）</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 補助事業として、市広報4月1日号及び市ホームページ上で、事業要領や申請書様式を提示して実施。</p> <p>【実施中の実績】 建設中のはのぼり旗を建設現場に設置し、みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることを広く市民へ周知。来訪者に、当該事業が税事業を活用していることを周知するため、津市独自のパンフレットを配布した。</p> <p>【実施後の実績】 津市のHPにより事業の周知を実施。</p> <p>【今後の見込】 市内の建築士会や施工業者へも周知を図りたい。 津市は、子ども達に対し林業教室等を税事業で実施している。保護者も同伴しており、森林教育と住宅建築を結んで教育へ繋げて行きたい。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

津市

事業名

木材利用促進事業

7. 写真



写真1

津市広報平成29年4月1日号 記載

写真2

住宅展示(津市河芸町西千里)



写真3

住宅展示会場での幟設置

写真4

住宅展示会場内部



写真5

展示会場でのチラシ設置

写真6

津市作成 税のちらし(森を守るため木を使おう)

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
4	基本	津市公共施設木質化事業(サオリーナ・三重武道館・津市まん中広場)
事業費	10,251,144 円(うち交付金	10,158,720 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	森林を支える社会づくりや木の薫る空間づくりを目指すため、公共空間における備品等の木質化を地域産材で行う。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 サオリーナ・三重武道館:平成29年10月1日供用開始の津市産業・スポーツセンターにおいて、応接セットやテーブル、会議用机などの事務備品及び巻藁台や札などの弓道備品を地域産材の木製品によって整備する。 津市まん中広場:長机や椅子を地域産材の木製品によって整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 津市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないので該当しない。</p> <p>【箇所数】 サオリーナ・三重武道館:津市産業・スポーツセンター内サオリーナ・三重武道館(津市北河路町19番地1) 津市まん中広場:津市まん中広場(津市大門276番地)</p> <p>【事業量】 別紙のとおり</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月1日～平成30年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 サオリーナ・三重武道館:平成29年10月1日以降の施設利用者(推定)年間350,000名 津市まん中広場:津市まん中広場利用者等(津市まん中広場H29利用者数 6,891人)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 施設に地域産材を使用した木製品を設置することで、利用者や通行人などより多くの人に木材を使うことが森林を支えられることを知ってもらうとともに、木のぬくもりや木の薫る空間の心地よさを感じてもらおう機会を提供する。</p> <p>【実施した効果】 サオリーナ・三重武道館:施設の供用開始以降、利用者に対する啓発効果が発揮できている。 津市まん中広場:中心市街地活性化のためのイベント及び、通行人等の休憩場所として利用者に対する啓発効果が発揮できている。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 サオリーナ・三重武道館:津市が施設の管理運営を委託している指定管理者が、整備した備品等も管理を行う。 津市まん中広場:管理業務委託を受けている、津市NPOサポートセンターにより管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 サオリーナ・三重武道館:施設の供用開始以降、利用者に対する啓発効果が発揮できている。 津市まん中広場:中心市街地活性化のためのイベント及び、通行人等の休憩場所として利用者に対する啓発効果が発揮できている。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 サオリーナ:「机が木の香りがする」、「温かみのある肌触りでよい」など好評を得ている。 三重武道館:「しっかりとした作りであり、木製の部屋である弓道場にふさわしい」、「木の香りがしてよい」など好評を得ている。 津市まん中広場:木製品のあたたかさを感じるとともに綺麗で安全なものとなり、利用者から好評を得ている。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
4	基本	津市公共施設木質化事業(サオリーナ・三重武道館・津市まん中広場)
事業費	10,251,144 円(うち交付金 10,158,720 円 うち基金活用 0 円)	

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 本市所有の備品購入として、指名競争入札等により、整備した。 なお、備品仕様書において、三重県産材(できる限り津市産材)を活用するよう指定した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 広く三重県産材(津市産材)をPRし、三重県産材、津市産材の良さを知ってもらう。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 サオリーナ:指名競争入札 落札率 65% (80万円未満の備品は見積り合せによる随意契約) 三重武道館:指名競争入札 落札率 97% (80万円未満の備品は見積り合せによる随意契約) 津市まん中広場:指名競争入札 落札率 84%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 指名競争入札等の結果による。</p> <p>【事業費の積算根拠】 指名競争入札等の結果による。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 サオリーナ・三重武道館:施設利用申請書等で利用者人数を把握している(一部推定を含む)。 津市まん中広場:施設利用申請書等で利用者人数を把握している(一部推定を含む)。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 管理者へ、木製備品について三重県産材及びみえ森と緑の県民税が活用されていることを、市民へ広く周知するよう指導した。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 本市所有の備品購入として、管理者により適切に管理を行う。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 本市所有の備品購入として、指名競争入札等により整備した。 なお、備品仕様書において三重県産材(できる限り津市産材)を活用するよう指定した。</p> <p>【実施中の実績】 備品の購入につき該当なし</p> <p>【実施後の実績】 サオリーナ・三重武道館:オープニングイベントの際にポスター等により周知した。納入された備品に「みえ森と緑の県民税」のロゴシールを貼り、県民税が利用されていることを周知する。また、施設内受付に木製看板を設置し、施設内の木製備品において三重県産材が使用されていることをPRしている。 津市まん中広場:納入された備品に「みえ森と緑の県民税」のロゴの焼印を押した。</p> <p>【今後の見込】 施設の木製備品について地域産材及びみえ森と緑の県民税が活用されていることを、市民へ周知していく。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

整備箇所	備品	単位	数量	備考
サオリーナ木製備品の購入	応接アームチェア	脚	2	
	応接センターテーブル	台	1	
	来賓用ソファー	台	1	
	会議用長机(1)	台	65	
	演台	台	2	
	司会台	台	2	
	花台	台	2	
	おむつ交換台	台	1	
	会議用長机(2)	台	20	
	会議用長机(3)	台	17	
	木製看板	個	2	
	計		115	

整備箇所	備品	単位	数量	備考
三重武道館木製備品の購入	巻藁A	台	2	
	巻藁B	台	2	
	巻藁C	台	2	
	弓立台	台	8	
	式台A	台	1	
	式台B	台	3	
	矢箱	個	6	
	弦巻掛具	個	4	
	的棚	台	2	
	射位・本座札	セット	3	
	一～六札	セット	3	
	入口・出口札	セット	2	
	点数表示器	台	1	
	的中表示器	台	1	
	計		38	

整備箇所	備品	単位	数量	備考
津市まん中広場の木製備品の購入	テーブル(大)	基	2	
	テーブル(小)	基	2	
	ベンチ	基	4	
	丸太椅子(大)	個	8	
	丸太椅子(小)	個	2	
	計			

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

津市

事業名

津市公共施設木質化事業(サオリーナ・三重武道館・津市まん中広場)

7. 写真



写真1

(サオリーナ)来賓用ソファー



写真2

(サオリーナ)会議用長机



写真3

(サオリーナ)演台



写真4

(サオリーナ)おむつ交換台



写真5

(サオリーナ)木製看板



写真6

(サオリーナ)
パンフレット設置(県民税パンフ及び事業関係パンフ)

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

津市

事業名

津市公共施設木質化事業(サオリーナ・三重武道館・津市まん中広場)

7. 写真



写真7

(三重武道館) 巻藁台

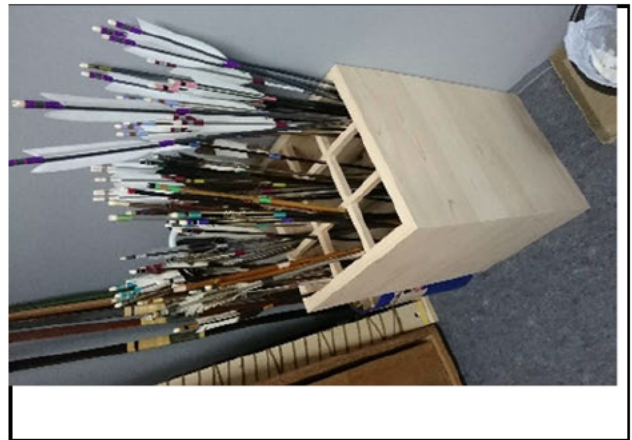


写真8

(三重武道館) 矢箱



写真9

(三重武道館) 弦巻掛具



写真10

(三重武道館) 的棚



写真11

(津市まんなか広場) テーブル(大)



写真12

(津市まんなか広場) ベンチ

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
5	基本・特別	木質バイオマス利用促進事業
事業費	33,617,000 円(うち交付金 33,495,880 円 うち基金活用 0 円)	

1. 事業の目的	間伐等で発生する林地残材等について、再生可能エネルギーである木質バイオマスエネルギー利用を図るため、採算の合いくい林地からの搬出に関し、搬出経費の一部を支援することで、森林所有者・林業事業体への意識啓発、取組拡大、利用量の増加を図る。また、林地残材の減少を図り河川等に流出しない森林づくりにもつなげる。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 林地残材の搬出・運搬に対する支援を行い木質バイオマス資源の利用促進を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 認定林業事業体</p> <p>【補助率等】 定額助成(間伐施業地→山土場6,400円/m³、山土場→チップ工場1,200円/m³)</p> <p>【箇所数】 中勢森林組合 津市美杉町川上地内ほか 8箇所 木原造林株式会社美杉事務所:津市美杉町八手俣地内 NPO法人もりずむ 津市美杉町上多気地内ほか4箇所</p> <p>【事業量】 林地残材搬出材積 4,423.30 m³ 中勢森林組合 3,329.76 m³ 木原造林株式会社美杉事務所 1,040.00 m³ NPO法人もりずむ 53.54 m³</p> <p>【事業実施期間】 平成29年4月3日から平成30年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 流域居住者(不特定)、林業事業体3者、バイオマスエネルギー利用者(不特定)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 林地残材が多く発生している間伐実施箇所を対象に搬出を支援することで、効率的に未利用材の利用が進むと考えられるため。</p> <p>【実施した効果】 林地残材の減少により河川への流出の危険性が減少し、減災効果が得られた。また、森林所有者・林業事業体への意識啓発、取組拡大が進み、バイオマス発電燃料として未利用材の有効活用が進んだ。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 森林所有者による管理</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 森林の持つ多面的機能が発揮されるよう森林として維持し、また、事業結果のホームページ掲載等、啓発材料として活用する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 土砂崩れ等が発生した際の木材流出量が軽減できることによる流域住民の安心感の増加 木材を有効利用するというエコ活動としての認識の向上</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	津市
------	--------------	-----	----

番号	区分	事業名
5	基本・特別	木質バイオマス利用促進事業
事業費	33,617,000 円(うち交付金	33,495,880 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 搬出経費に対する補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 災害時の林地残材に対する不安を軽減してほしいという地域住民の声と木質バイオマス発電燃料の供給促進が、林地残材の搬出という行為でマッチングしたため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 定額助成(間伐施業地→山土場6,400円/m³、山土場→チップ工場1,200円/m³) 補助額の合計が搬出にかかる経費から林地残材の売却額を控除して得た額を超える場合は当該額を限度額としている。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 申請方式であり、該当なし</p> <p>【事業費の積算根拠】 定額助成(間伐施業地→山土場6,400円/m³、山土場→チップ工場1,200円/m³) 補助額の合計が搬出にかかる経費から林地残材の売却額を控除して得た額を超える場合は当該額を限度額としている。</p>
5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 参加者、搬出材積については補助金交付申請書で確認。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 当事業での協定は無いが、間伐実施箇所の多くは転用等の規制がある。</p>
6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 予算書にみえ森と緑の県民税市町交付金事業を明記して、ホームページに掲載 認定林業事業体を対象に事業説明会を開催</p> <p>【実施中の実績】 山土場に県民税を利用していることを示す幟を設置</p> <p>【実施後の実績】 事業結果をホームページに掲載</p> <p>【今後の見込】 森林の多面的機能の向上が見込まれる。今後も継続して実施していきたい。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	津市
-----	----

事業名	木質バイオマス利用促進事業
-----	---------------

5. 写真



写真1
搬出状況



写真2
山土場



写真3
トラックへの積込



写真4
チップ工場搬入状況(中勢森林組合)

津市 - みえ森と緑の県民税 1/4 ページ

みえ森と緑の県民税

近年の木材価格の低迷などにより経営者の悲観、森林所有者の経営意欲の減退を招かれています。一方で、近年は集中豪雨が頻発している状況となっています。そのため、土砂や浸水の発生を抑制する災害に強い森林と、そのような森林づくりを県民みえ森と緑の県民税は2つの基本方針に沿ってつづつ対策を展開しています。

基本方針1 災害に強い森林づくり
 防災・減災の観点から整備の急がれる森林について、土砂災害防止施設等とお高めの(1)土砂や浸水を出さない森林づくり
 土砂や浸水によって人家や公共施設に被害が及ばないように、湧水緩和や土砂災害防(2)暮らしに身近な森林づくり
 生活環境の保全や向上のため、県民の暮らしに親わりの深い森林について必要な対策を基本方針2 県民全体で森林を支える社会づくり
 住居による森林づくり活動への参加の機会や木と触れ合う機会の提供を進めるとともに、社会づくりを進めます。
 (3)森を育む人づくり
 森林中核を大切に思い育む人づくりのため、児童・生徒をはじめさまざまな世代に、森林道場を設けます。
 (4)木の薫る空間づくり
 土づくりを通して森林を支えるため、県民の暮らしや公共空間において、建築からエネルギーまで、木の薫る空間づくりを進めます。
 (5)地域に身近な水や緑の環境づくり
 地域の身近な水や緑の環境づくりを進めるため、森・川・海つながりを意識した森林や川の環境と県民との関係を深めたいと考えています。

詳しくは、[みえ森と緑の県民税](#)(外部リンク)をご覧ください。

市町交付金事業

市町が地域の実情に応じて創設工夫して森林づくりの施策を展開しています。

平成29年度の取り組み

木質バイオマス利用促進事業

閉伐で発生した林地残材を搬出する経費に対し補助することにより、木質バイオマスエネルギー利用を促り、また、林地残材の減少することで河川に木が流出しない森林づくりにつながりました。

津市 - みえ森と緑の県民税 3/4 ページ

森林防衛事業

白 紙